

令和6年度 全国医師会勤務医部会連絡協議会

勤務医の声を医師会へ、 そして国へ

～医師会の組織力が医療を守る～

令和 **6** 年 **10** 月 **26** 日(土)

10:00～17:30

ホテル日航福岡 3階 都久志の間



博多織の特徴 ※表紙デザイン

博多織は先染めの糸を使い、細い経糸（たていと）を多く用い、太い緯糸（よこいと）を箆で強く打ち込み、主に経糸を浮かせて柄を織り出すのが特徴です。生地に厚みや張りがあり、締めたら緩まないということで、古くは重い刀を腰に差す武士の帯として重用され、今でもその特性が活かされています。

伝統的な帯の生産だけでなく、現代にあわせた製品がその特性を活かし、多く製造されています。



献上柄

献上柄は、仏具の「独鈷」と「華皿」との結合と中間に縞を配した紋様です。博多織の始祖満田彌三右衛門（みつだやざえもん）が考案したと言われ、現在でも博多織製品に多く織り出され、また「博多」の象徴の柄として、福岡市地下鉄の博多駅のシンボルマークなど、福岡市内のあちこちで目にすることができます。

慶長5年（1600年）黒田長政が筑前を領有するようになってからは、幕府への献上品として博多織を献上するようになりました。



独鈷



華皿

博多織の歴史

1235年、満田彌三右衛門は、圓爾弁圓（えんにべんえん後に聖一国師）と共に宋へ向け博多を出発。宋に6年間滞在し、織物、朱、箔、素麺、麝香丸の5つの製法を修得し、1241年に博多に帰ります。

彌三右衛門は、これらの製法を人々に伝えましたが、織物の技法だけは家伝とし、独自の技術を加え、広東織と称していました。さらに250年ほど後、満田彌三右衛門の子孫、満田彦三郎（みつだひこさぶろう）が明に渡り、織物の技法を研究。竹若藤兵衛（たけわかとうべい）と工法の改良を重ね、琥珀織のように生地が厚く、模様の浮きでた厚地の織物を作り出しました。竹若藤兵衛が織り出した織物は広東織からヒントを得たもので、地質が非常に硬いので、反物としてより、帯として使われることの方が多く、寸法や規格を創製しました。

これが博多帯の始めであり、その織物は博多の地名をとって、「覇家台織」（はかたおり）と名付けられたと伝えられています。今から480年ほど前のことです。

慶長5年（1600年）、黒田長政が筑前を領するようになり、徳川幕府への献上品として博多織を選び、毎年3月に帯地10筋と生絹（すずし）3疋を献上します。この品々を総称して「定格献上」と名付け、博多織元に「織屋株」と称する特権を与え、保護という名の統制のもとで、藩からの需要のみを生産させ、献上の風格と希少価値を厳重に保護していきます。

江戸時代の初めは、高級品の絹織物が主体で、生糸は全て中国からの輸入でした。博多織は帯地の他、緞子や生絹を織っていましたが、当時は帯地よりも緞子や生絹の方が世間に広く知られ、精巧な技術や味わいが特徴でした。

1750年ごろには博多織屋は12軒が成立していたと伝えられています。

江戸幕府の崩壊後、藩に保護されていた博多織も自由に生産され、明治18年（1885年）にはジャカード機が導入され、同年、松居織工場が袋帯を発明。明治30年には240軒の博多織屋が存在していました。

しかし明治37年以降は日露戦争を境に経済は活気を失い、さらに昭和17年企業整備令により残存した業者は31名となってしまいます。

戦後（昭和30年頃から）、経済復興の中で徐々に着物がブームとなり業者数、生産数も増加、昭和50年のピーク時には168軒、帯で約200万本の生産数を誇り、昭和51年に伝統的工芸品に指定されました。

（株式会社サヌイ織物 博多織の説明より引用）

目次

ご挨拶

日本医師会会長	2
福岡県医師会会長	3

ご参加の皆様へのお願い	4
-------------------	---

会場図	5
-----------	---

プログラム	6
-------------	---

特別講演Ⅰ

「医師会のさらなる組織強化に向けて」	9
--------------------------	---

特別講演Ⅱ

「2025年を目前に考える地域医療構想のこれまでとこれから」	13
--------------------------------------	----

日本医師会勤務医委員会報告

～勤務医のエンパワーメントを通じた医師会の組織強化（2）～	19
-------------------------------------	----

次期担当県挨拶	23
---------------	----

特別講演Ⅲ

「医局改革大作戦 ―いかに新入医局員を5倍に増やしたか―」	25
-------------------------------------	----

シンポジウム

共通テーマ「組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現」

シンポジウムⅠ「様々な立場からの声」	31
--------------------------	----

シンポジウムⅡ「働きたい病院：組織改革と業務改善」	39
---------------------------------	----

参加者名簿	51
-------------	----

付録 全国医師会勤務医部会連絡協議会開催地及びテーマ等一覧表	67
--------------------------------------	----



ご挨拶

日本医師会会長

松 本 吉 郎

令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催にあたり、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、本年度の連絡協議会の準備と運営をご担当いただきました、福岡県医師会の蓮澤浩明会長をはじめ役職員の皆様方に衷心より感謝申し上げます。

本連絡協議会は、昭和56年に記念すべき第1回が福岡市医師会の主催で開催されて以来、今回で44回目の開催を数えることとなりました。福岡県での開催は第1回、第18回に続き、今年度が3回目となり、これは全国で最も多い開催回数となります。改めて、これまでの勤務医活動に取り組まれてこられた福岡県医師会の先生方に対し、感謝申し上げる次第です。

日本医師会員における勤務医の割合は令和2年に50%を超えて以来、年々増加しており、令和5年11月時点では51.1%となりました。また、郡市区等医師会の全国平均は56.6%と6割に迫る勢いであるほか、全医師数における勤務医の割合も7割を超えております。その意味でも、医療現場の最前線で活躍されている勤務医の先生方の実際の声や意見を医師会がしっかりと汲み上げ、国の医療政策に反映していくことが、医師会活動を進めていく上で大変重要となります。

本日のメインテーマである「勤務医の声を医師会へ、そして国へ～医師会の組織力が医療を守る～」は、勤務医の割合が増えていく中で医師会活動がどうあるべきかを考える、まさに本質を突いたテーマであります。シンポジウムでは、『組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現』という共通テーマのもと、「様々な立場からの声」「働きたい病院：組織改革と業務改善」という2つのテーマについて、それぞれのお立場からご議論いただきますが、会場にお越しの多くの勤務医の先生方からも率直なご意見を頂戴しながら、活発な議論が交わされますことを心より期待しております。

また、シンポジウムの共通テーマの中にもございます「組織力強化」については、特別講演Ⅰにおいて「医師会のさらなる組織強化に向けて」と題し、私からもお話しさせていただきます。今期の日本医師会執行部では、「地域から中央へ」「さらなる信頼を得られる医師会へ」「医師の期待に応える医師会へ」「一致団結する強い医師会へ」という4つの柱を掲げておりますが、組織力強化はそのすべての基盤となる大変重要な課題であります。医療の現場に根差した提言をしっかりと医療政策の決定プロセスに反映していく中で、医師の診療・生活を支援し、国民の健康と生命を守っていくためにも、先生方には改めてその重要性をご理解いただいた上で、引き続き組織力強化への取り組みの推進をよろしくお願い申し上げます。

本日はさまざまな医療現場の実態を踏まえ、多くの先生方からご講演をいただく大変貴重な機会となっております。ご出席の先生方におかれましては、本シンポジウムの内容をぜひご地元にお持ち帰りいただき、医師会の組織力強化の一助にいただければ幸いです。

日本医師会といたしましても、勤務医の声をしっかりと拝聴し、執行部一丸となって会務に邁進してまいりますので、引き続き本会会務への一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本協議会の盛会と皆様方の益々のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶

福岡県医師会会長

蓮澤 浩 明

令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の開催にあたり、担当県医師会として一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、全国各地より数多くの先生方にご参加頂きましたことに深く感謝申し上げますとともに、心より歓迎致します。ここ福岡での開催は、昭和56年度、平成9年度に続き、27年ぶり3回目であります。勤務医が担う役割が拡大していくなか、今回の本協議会のメインテーマを「勤務医の声を医師会へ、そして国へ～医師会の組織力が医療を守る～」と致しました。

今、日本医師会は組織強化を最重要課題のひとつに掲げ、全国の医師会において様々な取り組みが進められています。医師の4分の3以上を占める勤務医が、これまで以上に医師会活動に参画することで医師会組織を強化し、適切な医療政策と地域医療構想の実現に繋げていかねばなりません。これこそが医療の専門職集団である医師会の存在意義であり、目指すところでもあります。開業医も勤務医も、病院も診療所も所属を越え、医師会のもと全ての医師が一体となって地域医療提供体制を確保していく必要があります。これは、私たちが今回の新型コロナウイルス感染症のパンデミックへの対応で痛感したことでもあります。

勤務医の意見は、大学医師会を含む郡市区医師会から都道府県医師会を通じて日本医師会へとボトムアップで集約されることが期待されますが、医師会が勤務医の声をしっかりと受け止め医師会活動に如何に反映できるかが極めて重要であります。

今回の特別講演Ⅰでは「医師会のさらなる組織強化に向けて」と題し、日本医師会の松本吉郎会長よりご講演いただきます。続く特別講演Ⅱでは、「2025年を目前に考える地域医療のこれまでとこれから」を、厚生労働省医政局医療安全推進・医務指導室の松本晴樹室長と新潟県福祉保健部の中村洋心部長より、赴任された新潟県での取り組みを含め、国において進められている地域医療構想の状況等についてご紹介いただきます。特別講演Ⅲでは「医局改革大作戦—いかに新入医局員を5倍に増やしたか—」について、名古屋市立大学整形外科の村上英樹主任教授よりご講演いただきます。医師会において組織強化に取り組むにあたり、若手医師に医師会の魅力を周知することに関して、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

午後からのシンポジウムでは共通テーマを「組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現」としています。シンポジウムⅠではテーマ「様々な立場からの声」のもと、大学病院、基幹病院、へき地医療、若手医師のそれぞれを代表する先生方のご講演、シンポジウムⅡではテーマ「働きたい病院：組織改革と業務改善」について、地域医療構想、医療DX、周産期医療、女性医師の観点から専門の先生方よりご講演いただきます。勤務医の総力を結集させ、若手医師の医師会事業に対する理解の促進や帰属意識の醸成、さらには勤務医の意見集約の実現に向けて熱い議論を交わしたいと思います。

令和6年度は医師の働き方改革が実行された年であります。勤務医を取り巻く環境も大きく変化することが予想されます。国の医師偏在対策の動向にも注視しておかねばなりません。

この令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会が、医師会の組織力強化と我が国のより良い医療制度の実現に向け、実り多いものになりますことを祈念しご挨拶と致します。

ご参加の皆様へのお願い

1. フロアからの発言について

フロアからご発言される方は、座長の指示に従い所属と氏名を告げてからご発言ください。

2. 昼食について

昼食の時間となりましたら、会場前のロビーにお弁当をご用意しておりますので、お取りください。

3. ドリンク・菓子コーナー

本会場前のロビーにお飲物とお菓子をご用意しておりますので、ご自由にお取りください。

4. 懇親会について

着席スタイルにて行います。名札裏面に記載されている数字のテーブルにご着席ください。

協議会終了後、懇親会までの控室として新館2階ラメールをご準備しております。お飲物をお出しいたしますので、是非ご利用ください。

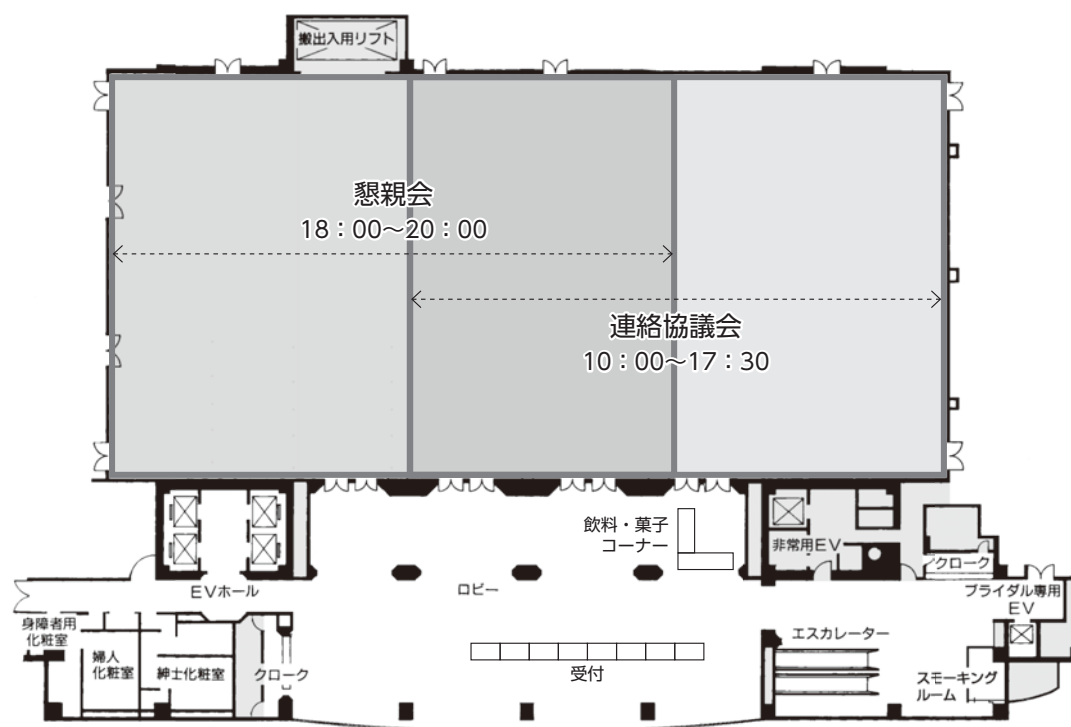
5. 日本医師会生涯教育制度について

本協議会は「全国医師会研修管理システム」に登録されるため、「参加証」は交付致しません。
取得できるカリキュラムコードおよび単位は下記のとおりです。

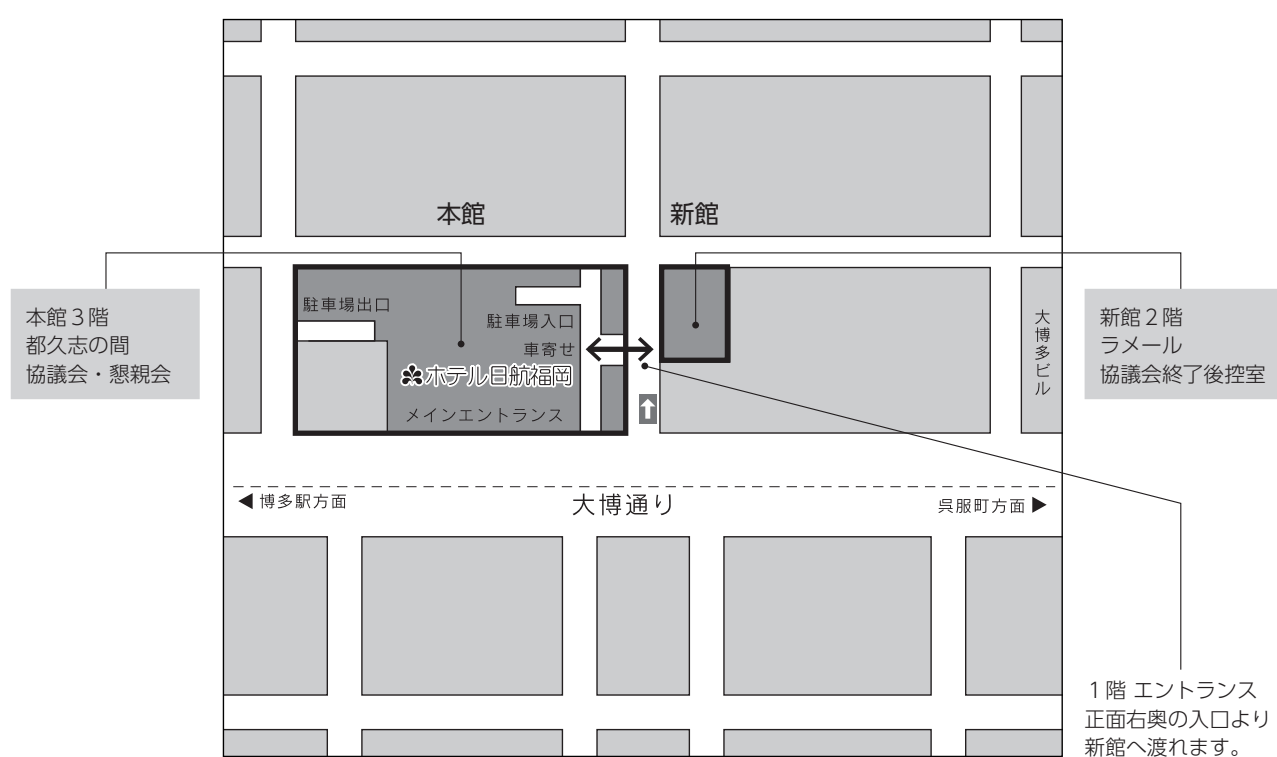
CC	単位
1（医師のプロフェッショナリズム）	2. 0
1 0（チーム医療）	1. 5
1 2（地域医療）	0. 5
0（最新のトピックス・その他）	0. 5

会場図

ホテル日航福岡 3階 会場図



ホテル日航福岡 周辺地図



令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 プログラム

日 時 令和6年10月26日(土) 10:00～17:30 **会 場** ホテル日航福岡 3階 都久志の間
主 催 日本医師会 **担 当** 福岡県医師会

メイン
テーマ

勤務医の声を医師会へ、そして国へ ～医師会の組織力が医療を守る～

日 程

総合司会 福岡県医師会常任理事 戸次 鎮史

9:00～	受付開始
10:00～10:25	開 会
	開会宣言 福岡県医師会副会長 平田 泰彦
	挨 拶 日本医師会会長 松本 吉郎
	福岡県医師会会長 蓮澤 浩明
	来賓祝辞 福岡県知事 服部誠太郎
	福岡市長 高島宗一郎
10:25～11:00	特別講演Ⅰ 「医師会のさらなる組織強化に向けて」 日本医師会会長 松本 吉郎 座長：福岡県医師会会長 蓮澤 浩明
11:00～11:50	特別講演Ⅱ 「2025年を目前に考える地域医療構想のこれまでとこれから」 厚生労働省医政局医療安全推進・医務指導室長 松本 晴樹 新潟県福祉保健部長 中村 洋心 座長：福岡県医師会副会長 杉 健三
11:50～12:05	報 告 「日本医師会勤務医委員会報告 ～勤務医のエンパワーメントを通じた医師会の組織強化(2)～」 日本医師会勤務医委員会委員長 一宮 仁
12:05～12:10	次期担当県挨拶 岩手県医師会会長 本間 博
12:10～13:00	昼 食
13:00～13:50	特別講演Ⅲ 「医局改革大作戦 いかに新入医局員を5倍に増やしたかー」 名古屋市立大学整形外科主任教授 村上 英樹 座長：福岡県医師会副会長 平田 泰彦

組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現

13:50~15:30	シンポジウムⅠ 「様々な立場からの声」 座長：日本医師会勤務医委員会委員長・福岡県医師会副会長 一宮 仁 日本医師会勤務医委員会委員・香川県医師会副会長 ・香川県済生会病院病院長 若林 久男 ・【大学病院】「大学病院改革と医師会」 久留米大学病院病院長 野村 政壽 ・【基幹病院】「基幹病院の抱える問題とその対策」 国立病院機構九州医療センター広域災害 ・救命救急センターセンター長 野田英一郎 ・【へき地医療】「へき地診療所の運営とへき地医療に携わる医師に求められる支援」 公益社団法人地域医療振興協会飯塚市立病院内科科長 長澤 滋裕 ・【若手医師】「日本とドイツの医療現場で感じたこと。 全ての医師にとって働きやすい環境とは？」 日本医師会ジュニアドクターズネットワーク国際担当役員 ・帝京大学医学部附属病院循環器内科 岡本 真希
15:30~15:40	休 憩
15:40~17:20	シンポジウムⅡ 「働きたい病院：組織改革と業務改善」 座長：福岡県医師会理事 横倉 義典 福岡県医師会勤務医部会委員会副委員長 ・福岡市民病院副院長 平川 勝之 ・【地域医療構想】「統合による病院内の変化、地域医療の変化 一乗り越えるべき問題は多いが、明るい未来も見えてくる」 掛川市・袋井市病院企業団立 中東遠総合医療センター企業長兼院長 宮地 正彦 ・【医療DX】「医療DXの考え方と対応」 九州大学大学院医学研究院医療情報学講座教授 中島 直樹 ・【周産期医療】「働き方改革で揺れる周産期母子医療センター」 国立病院機構小倉医療センター産婦人科部長 川上 浩介 ・【女性医師】「働きたい職場をめざして」 福岡県医師会理事・JCHO久留米総合病院名誉院長 田中 眞紀
17:20	ふくおか宣言採択 福岡県医師会副会長 一宮 仁
17:25	閉 会 福岡県医師会副会長 杉 健三
18:00~20:00	懇 親 会

総合司会



福岡県医師会常任理事

戸次 鎮史

●学歴

昭和53年3月 久留米大学医学部卒業

●職歴

昭和53年11月 久留米大学医学部整形外科学教室入局
昭和53年11月 久留米大学病院整形外科
昭和54年10月 宮崎県立日南病院整形外科
昭和56年4月 久留米社会保険第一病院整形外科
昭和57年4月 久留米大学病院リハビリテーション部
昭和58年4月 原鶴温泉病院院長
平成5年4月 久留米大学医学部整形外科非常勤講師
平成26年4月 原鶴温泉病院理事長

●経歴

平成16年4月 浮羽医師会会長
平成16年4月 福岡県医師会代議員
平成22年4月 日本医師会代議員
平成24年4月 福岡県医師会理事
平成26年6月 福岡県医師会常任理事

10:25~11:00
特別講演 I

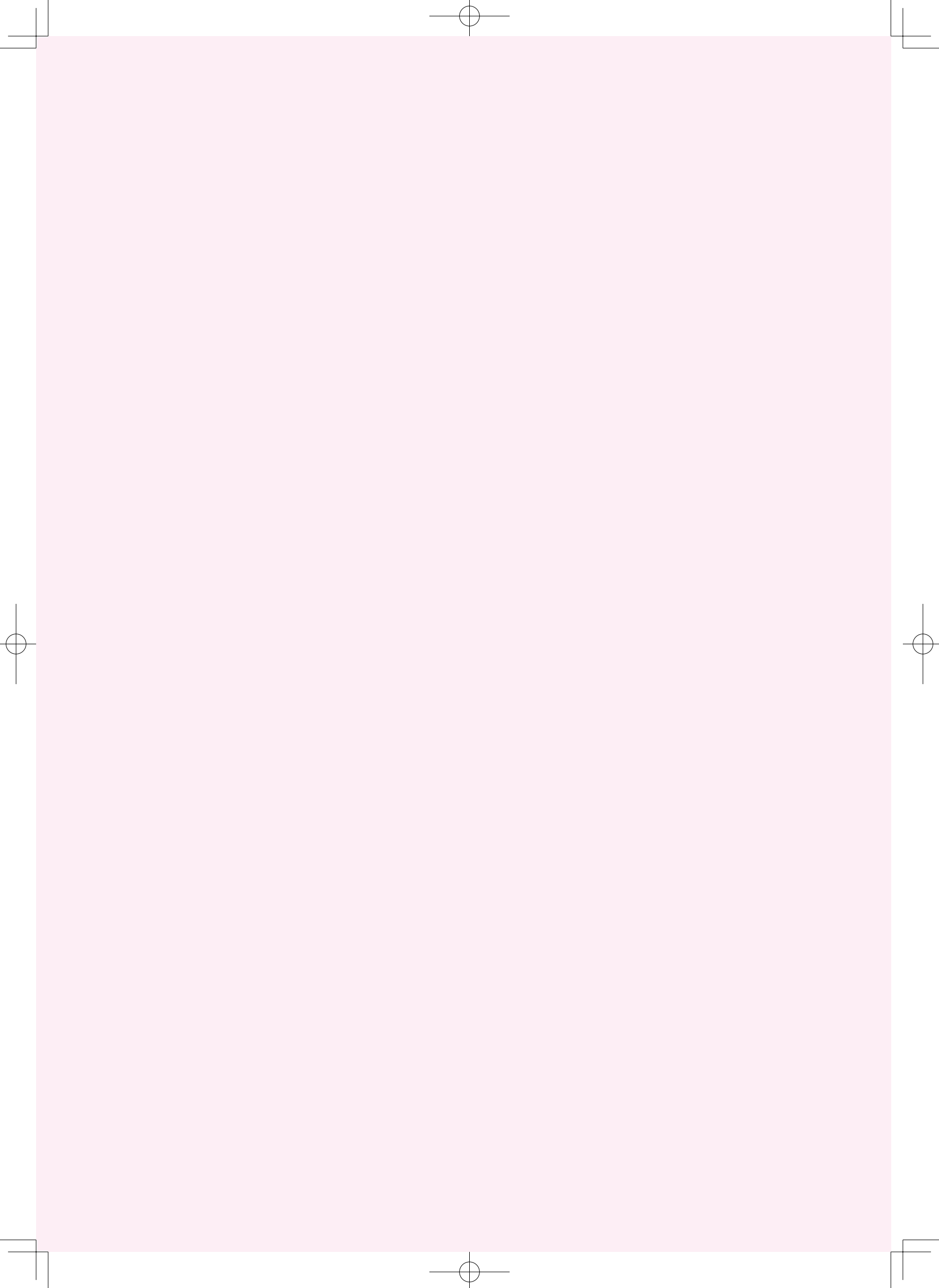
「医師会のさらなる組織強化に向けて」

日本医師会会長
松本 吉郎

講師

福岡県医師会会長
蓮澤 浩明

座長





医師会のさらなる 組織強化に向けて

日本医師会会長
松本 吉郎

日本医師会は医師たる者は、すべて医師会に入会してほしいと考えています。そのため、特に、臨床研修医をはじめとする若手医師の会費負担等を考慮し、令和5年度より、医学部卒後5年目までの会費減免を実施しました。

組織強化は、まず第一に、より多くの医師に入会していただくことが基本となりますが、会員数のみを重要視することがその本質ではありません。

最も大切なことは、それぞれの医師会及び医師会員が、医師会活動の意義や重要性を再確認し、医師会の存在意義に対する理解を改めて深めると同時に、それを広く周知することです。

換言すれば、各医師会及び各会員が、医師会活動の理念を共有する中で、有機的連携に基づく発信力や実現力を高め、医療を取り巻く難局を乗り越えていくための力を一段と強固にしていくことが重要です。

そして、その過程においては、医師会活動がどれだけ各地域の医療に根付き、国民医療を支えているのかということを、医師会に未入会の医師や国民に継続的に伝えていく中で、医師会活動への理解とさらなる参画を促していくことが必要です。

そこで、今回の特別講演では、組織強化に関する基本的な考え方を概説した後に、組織強化の第一歩となる入会促進（特に、会費減免の対象となる若手医師）及び医師会員としての定着という観点より、考察を述べたいと思います。

とりわけ、入会促進については、三層各医師会が一丸となって、これまで以上にメリハリを付けた、一歩踏み込んだ取り組みが必要と考えています。

日本医師会は、引き続き、地域医師会との一層の連携を深めていく中で、「地域から中央へ」という流れを強化していくとともに、各地域における医療現場の想いを政策に反映していくために、組織強化の推進等を通じた「一致団結する医師会」へとさらなる飛躍を遂げていく覚悟です。

本連絡協議会にご出席の皆様方におかれましても、組織強化に関する取り組みをはじめ、本会会務への一層のご支援をお願いいたします。

PROFILE

松本 吉郎（まつもと きちろう）

●学歴等

1980年3月 浜松医科大学医学部卒業
1985年7月 日本皮膚科学会皮膚科専門医
1986年4月 日本形成外科学会形成外科専門医
2000年9月 日本医師会産業医
2011年4月 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科分野指導医
2017年4月 社会医学系専門医・指導医

2006年4月 大宮医師会副会長
2010年4月 埼玉県医師会理事
2011年4月 埼玉県医師会常任理事
2014年6月 大宮医師会会長
2016年6月 日本医師会常任理事
2017年7月 厚生労働省「中央社会保険医療協議会」委員
2022年6月 日本医師会会長

●主な経歴

1988年4月 （医）松本皮膚科形成外科医院理事長・院長
1996年4月 大宮医師会理事

●賞罰

2015年4月 藍綬褒章

座 長



福岡県医師会会長

蓮澤 浩明

●学歴

昭和48年 3 月 久留米大学医学部卒業

●職歴

昭和48年 4 月 久留米大学医学部精神神経科入局

昭和55年 7 月 久留米大学医学部精神神経科講師

昭和55年10月 医療法人信和会大牟田保養院副院長

昭和60年 6 月 医療法人信和会大牟田保養院院長

平成 3 年12月 医療法人信和会理事長

●経歴

昭和63年 4 月 大牟田医師会理事

平成16年 4 月 大牟田医師会副会長

平成16年 4 月 福岡県医師会監事

平成20年 4 月 大牟田医師会会長

平成20年 4 月 大牟田医師会看護専門学校校長

平成23年 3 月 福岡県医師会副会長

令和 4 年 1 月 福岡県医師会会長

11:00~11:50
特別講演Ⅱ

「2025年を目前に考える 地域医療構想のこれまでとこれから」

厚生労働省医政局医療安全推進・医務指導室長

松本 晴樹

新潟県福祉保健部長

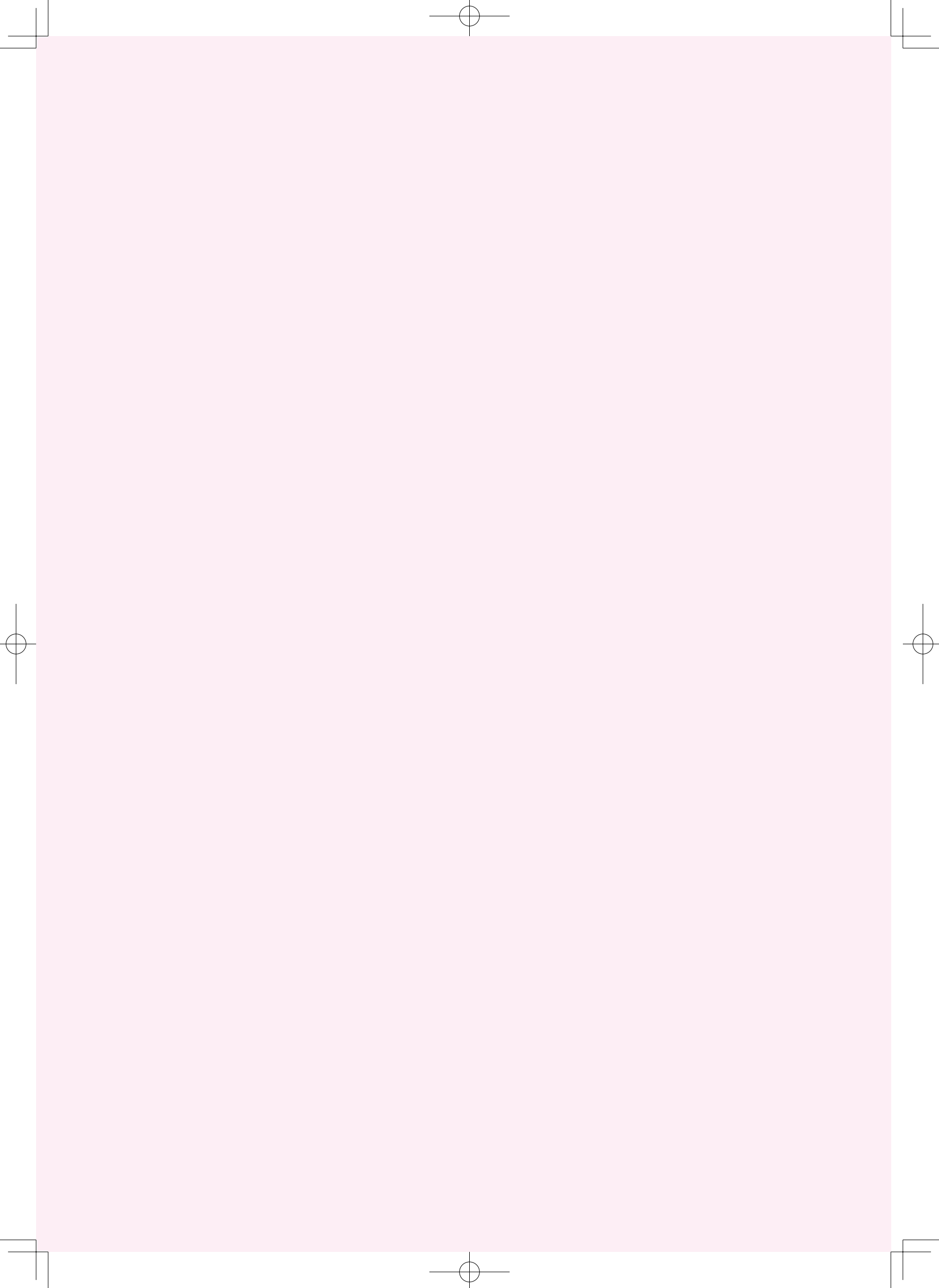
中村 洋心

福岡県医師会副会長

杉 健三

講師

座長



2025年を目前に考える 地域医療構想のこれまでとこれから



厚生労働省医政局
医療安全推進
・医務指導室長
松本 晴樹



新潟県福祉保健部長
中村 洋心

団塊の世代が後期高齢者になり終える2025年にさしかかり、multi-morbidityの高齢者の複雑化・複合化した医療ニーズに対応する医療提供がますます重要となっている。一方で、医師の働き方改革に対応していくためには、投入する医療資源投入量をなるべく抑えながら最大の医療効果を発揮する必要がある。

そのため、現在、国では新たな地域医療構想に向けた検討を行っている。2040年以降の高齢化や人口減少に対応するため、全ての地域・世代の患者が適切な医療・介護を受けられる体制を実現する必要がある。そのため、新たな地域医療構想では、入院医療だけでなく、外来医療や在宅医療、介護との連携を含む地域医療構想を位置づけ、医療資源を最適化・効率化することが求められる。

どのように実現するかという議論においては、高齢者救急の受入体制を強化し、早期リハビリを提供して生活の場に早期復帰を目指す。また、在宅医療の需要増加に対応し、24時間体制やオンライン診療、介護との連携を強化することが検討されている。医療の質やマンパワー確保のため、症例や医師を集約し、高度医療・救急を提供する体制を構築することも重要である。特に過疎地域では、医師の派遣や巡回診療、ICT活用で必要な医療機能を維持する。これにより、地域完結型の医療・介護提供体制を実現する。

医療の高度化/専門化が進行する中では、一般的に個々の医師の守備範囲は、狭小化/深化するものと考えられてきたが、高齢化に伴う状況変化の中では、幅広い守備範囲を持つ医療者の活躍が重要となる。

医師の総合性・包括性が発揮されるべき状況であり、近年、徐々にではあるが増加している。

演者は、3年4ヶ月間、新潟県の福祉保健部長として、地域の医療提供体制の持続可能性と質の向上に邁進し、様々な状況変化に直面した。その経験から、真に応えられるべき地域の医療ニーズの詳細と今後のニーズ等の変化について論じ、2040年の次の高齢者医療ニーズのサージを乗り越えるために必要となる対応等についても議論を行いたいと考えるものである。

PROFILE

松本 晴樹 (まつもと はるき)

●学歴

平成18年 千葉大学医学部卒業
医師免許取得

●職歴

平成18年 石巻赤十字病院 初期研修
平成20年 湘南鎌倉総合病院ER 後期研修

平成21年 厚生労働省入省 子ども家庭局 母子保健課
平成28年 ハーバード公衆衛生大学院 公衆衛生学修士
取得
平成30年 厚生労働省 医政局 地域医療計画課
令和2年 新潟県 福祉保健部長
令和5年 厚生労働省 医政局 地域医療計画課 医療
安全推進・医務指導室長

PROFILE

中村 洋心 (なかむら ようしん)

●学歴

平成23年 東北大学医学部卒業
医師免許取得

●職歴

平成23年 済生会宇都宮病院 初期研修
平成25年 仙台市立病院小児科 後期研修
平成26年 厚生労働省入省 健康局 総務課
(併) 原子爆弾被爆者援護対策室

平成27年 医政局 総務課
平成28年 茨城県 古河保健所
平成30年 厚生労働省 健康局 健康課
令和2年 オックスフォード大学 国際保健・熱帯医学
修士取得
令和3年 ケンブリッジ大学 MBA取得
令和3年 厚生労働省 医政局 地域医療計画課
令和5年 新潟県 福祉保健部長

座 長



福岡県医師会副会長

杉 健三

●学歴

昭和48年3月 久留米大学医学部卒業

●職歴

昭和53年4月 久留米大学医学部循環器病研究所

昭和54年8月 大牟田市立病院循環器科医長

昭和59年2月 久留米大学医学部第三内科医局長

昭和61年4月 久留米大学医学部第三内科講師

昭和62年12月 杉循環器科内科病院院長

平成10年11月 医療法人シーエムエス理事長

平成20年11月 社会福祉法人木犀会理事長

●経歴

平成16年4月 大牟田医師会理事

平成22年4月 福岡県医師会理事

平成24年4月 大牟田医師会副会長

平成26年6月 大牟田医師会会長

令和6年6月 福岡県医師会副会長

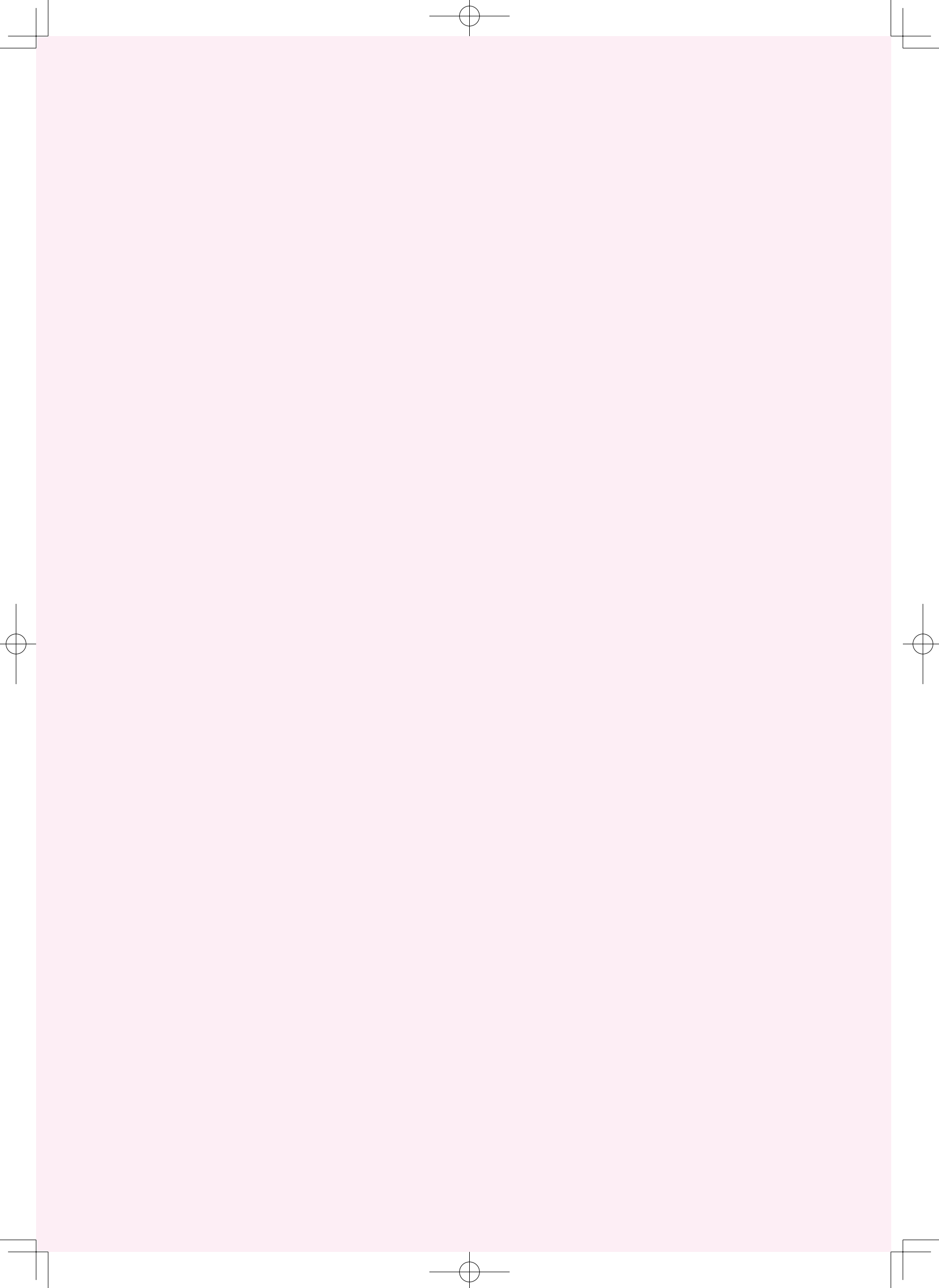
11:50~12:05

報 告

「日本医師会勤務医委員会報告 ～勤務医のエンパワーメントを通じた 医師会の組織強化(2)～」

日本医師会勤務医委員会委員長

一宮 仁





日本医師会勤務医委員会報告 ～勤務医のエンパワーメントを通じた 医師会の組織強化(2)～

日本医師会勤務医委員会委員長

一宮 仁

1. 勤務医委員会答申の概要

前期（令和4～5年度）の勤務医委員会では、渡辺憲前鳥取県医師会会長を委員長として、会長諮問「医師会組織強化と勤務医」について答申を取りまとめ、令和6年4月に松本会長に提出した。

答申の骨子は次の通りである。

- I. 若手医師の医師会入会促進に向けて
- II. 勤務医のキャリア形成や働き方を支援する医師会の取り組み
- III. 医師会組織の課題
- IV. 地域医師会の議論を医療政策につなげるために

また、今期（令和6～7年度）の勤務医委員会は、令和6年10月9日に第1回委員会を開催し、松本会長より諮問「勤務医の医師会活動へのさらなる参画について」を受け、検討を開始した。前期に引き続き、メーリングリストを活用しながら、委員同士の活発な意見交換を促していきたい。

2. 全国医師会勤務医部会連絡協議会

勤務医委員会では、本協議会のプログラム立案の段階から携わっており、シンポジウムのテーマや、当日採択される宣言の内容等に対し、意見具申を行っている。昨年度は青森県医師会担当にて「2024年、変わる勤務医、輝く勤務医」をメインテーマとし、5年ぶりに完全対面で開催された。本年度は、本日、福岡県医師会の担当にて、「勤務医の声を医師会へ、そして国へ～医師会の組織力が医療を守る～」をメインテーマに開催されるが、活発な議論のもと、大きな成果が上がることを期待している。

3. 都道府県医師会勤務医担当理事連絡協議会

本協議会は、勤務医委員会において、当日の協議内容の企画・立案を行ったうえで毎年5月に開催されている。本年度は5月17日にハイブリッド形式で開催され、（1）大規模災害と勤務医、（2）若手医師の期待に応える医師会の姿、の2題について講演が行われるとともに、幅広い議論が交わされた。

4. 勤務医委員会の広報活動

日本医師会の広報紙である「日医ニュース」では、各月20日号最終ページの『メイン記事』として、勤務医を取り巻く医療環境、直近の医療課題についての論説を掲載している。また、全国で活躍する勤務医の主張をコラムである『勤務医のひろば』で紹介し、勤務医の持つ幅広い意見の共有を図っている。勤務医委員会では『メイン記事』および『勤務医のひろば』の執筆者推薦を行っており、1人でも多くの勤務医が自らの意見を発信できるよう努めている。

PROFILE

一宮 仁 (いちみや ひとし)

●学歴

昭和51年3月 九州大学医学部卒業

令和4年10月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
顧問

●職歴

昭和51年6月 九州大学医学部附属病院研修医
昭和53年4月 九州大学医学部第一外科
昭和62年10月 スウェーデンカロリンスカ研究所研究員
平成2年1月 九州大学医学部附属病院助手・講師
平成6年4月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
平成21年4月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
副院長
平成26年4月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
病院長

●経歴

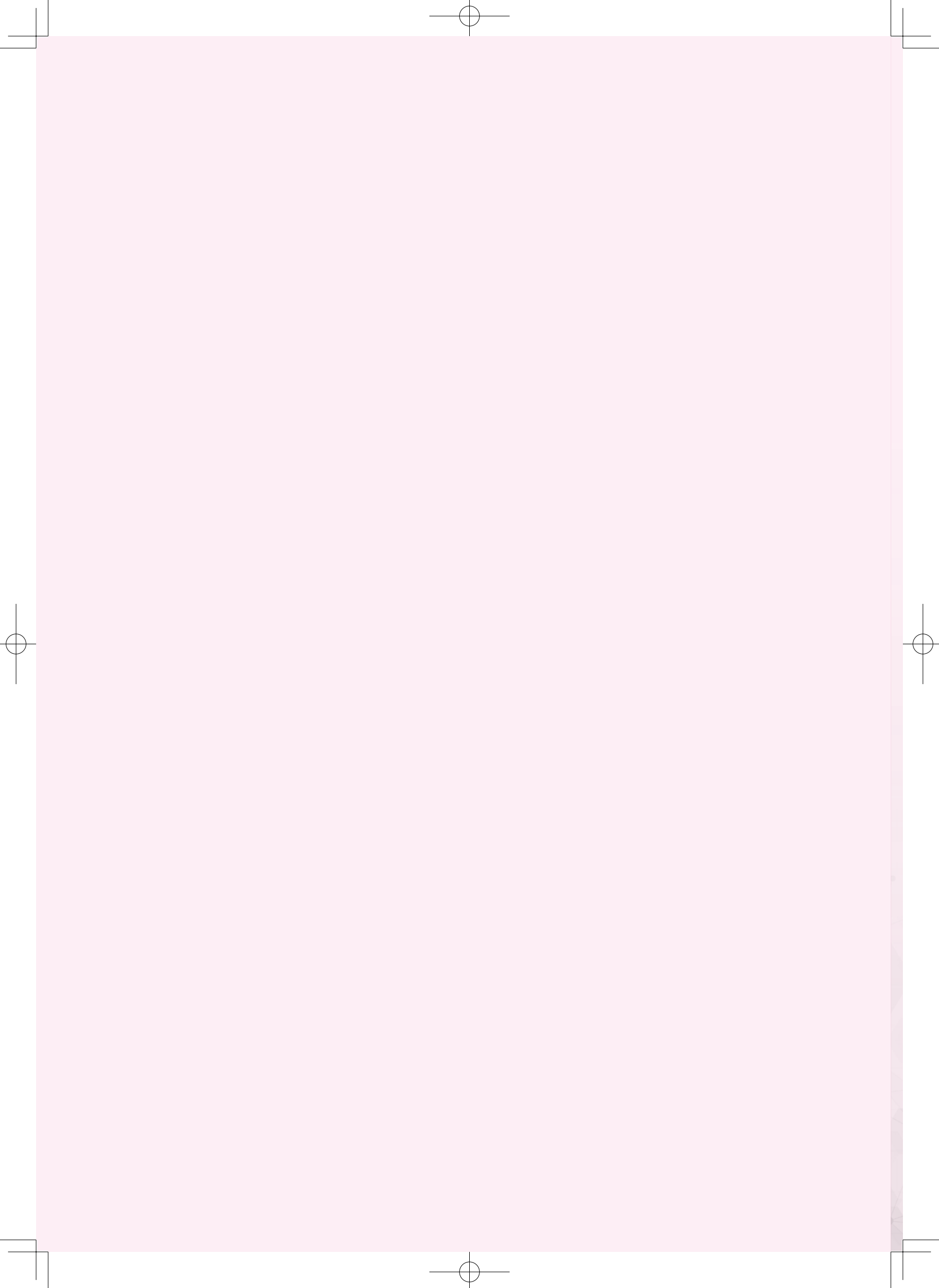
平成26年7月 福岡市医師会理事・福岡市勤務医会会長
平成28年7月 福岡市医師会常任理事
平成30年7月 福岡県医師会理事
令和2年6月 福岡県医師会常任理事
令和4年6月 福岡県医師会副会長

●日本医師会勤務医委員会

平成30年8月 日本医師会勤務医委員会委員
令和6年10月 同 委員長

12 : 05 ~ 12 : 10
次期担当県挨拶

岩手県医師会会長
本間 博



13:00~13:50
特別講演Ⅲ

「医局改革大作戦 —いかに新入医局員を5倍に増やしたか—」

名古屋市立大学整形外科主任教授

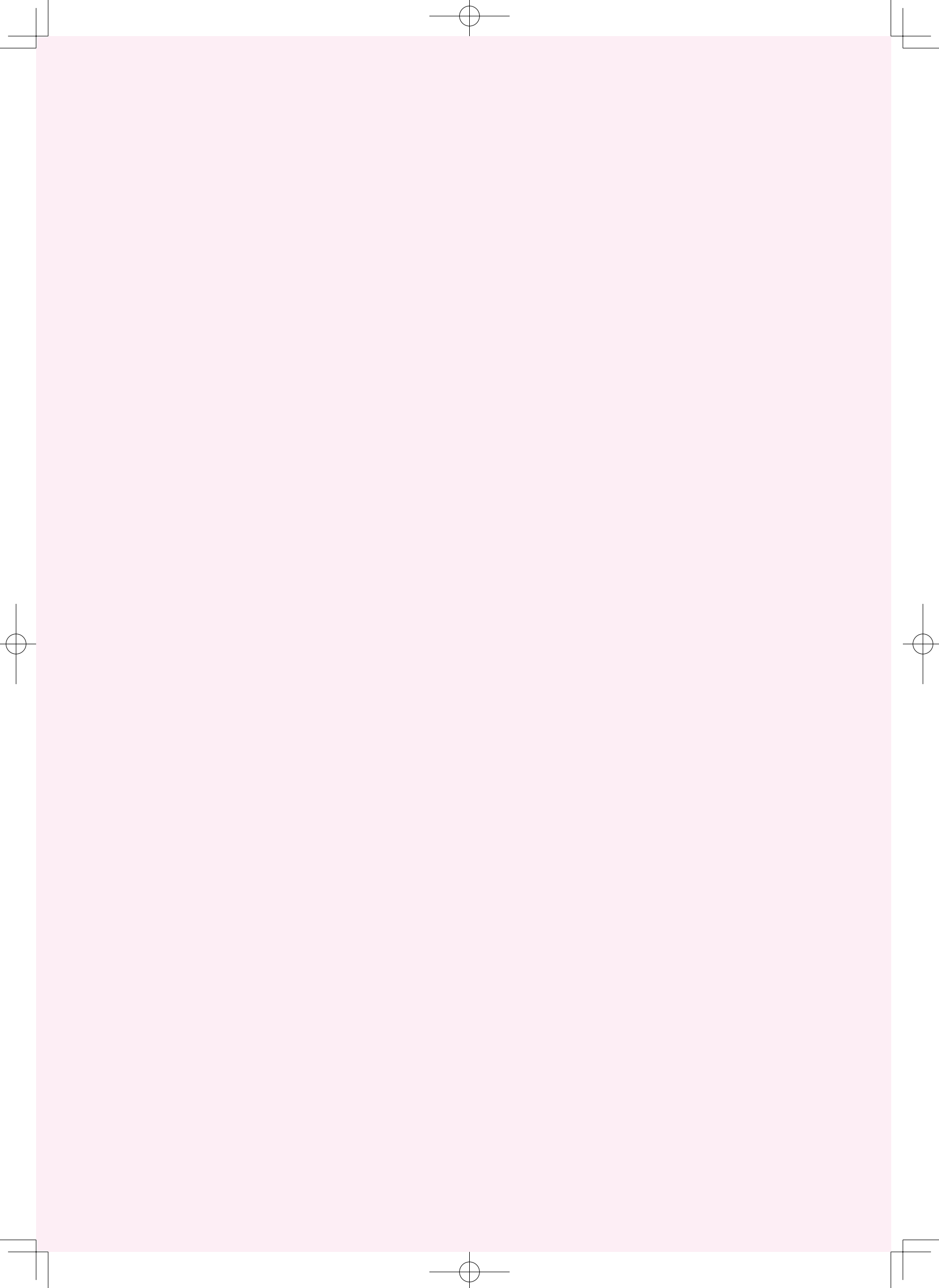
村上 英樹

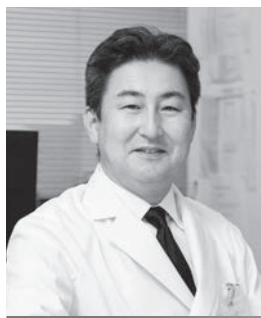
講師

福岡県医師会副会長

平田 泰彦

座長





医局改革大作戦

－いかに新入医局員を5倍に増やしたか－

名古屋市立大学整形外科主任教授

村上 英樹

本日の私の講演は、「日医 on-line」をご覧ください。



医局員を増やした15の秘策

1. 救急外傷とスポーツ整形に注力	学生人気の高い分野に注力、外傷班を新設
2. スポーツ関連寄附講座を新設	トップアスリートの講演会を次々開催
3. 関連病院を全て名古屋から通勤圏内に	遠方の関連病院から撤退
4. 専攻医プログラムを魅力的に	入局後2年間の病院は自由選択、3年目は同期全員が大学
5. ハンズオンなど教育セミナーの充実	
6. 盛大な医局説明会を年2回開催	私は兜をかぶって医局員の騎馬で登場、昨年は210人が参加
7. 医局のプロモーション活動	医局ポスター（図）を医学部の至る所に貼付、整形外科は凄いと錯覚させる（印象操作）
8. 医局の環境整備	デジタルサイネージで医局紹介動画配信、大看板の設置、配電盤に関連病院地図をマッピング
9. 女性に優しい医局に	デザイナーによる女性部屋を新設、医局にアロマを焚く
10. 医局秘書増員	秘書を2名から10名に増員、医局員の雑用を極力減らす
11. 留学を自由に	サーフィンしたい医局員が南の島へ留学
12. 医局費を減額し夏季休暇を2週間に	
13. 医局の飲み会は自由参加	遅刻や中途退席もOK
14. 医学生への労い	学生忘年会を企画、BSL学生にランチ券配布、国試勉強学生に弁当差し入れ、コロナ禍にマスク1万枚配布、困窮学生に応援基金制度開設
15. SNSの充実	特にインスタグラムの充実

図：医局ポスター

PROFILE

村上 英樹 (むらかみ ひでき)

●学歴

平成5年3月 金沢大学医学部卒業
 平成5年4月 金沢大学医学部附属病院 医員
 平成6年1月 市立敦賀病院 医員
 平成7年4月 石川県立中央病院 医員
 平成11年1月 吉田育英会財団海外派遣留学生
 アメリカ・エモリー大学脊椎センター留学
 平成13年2月 金沢大学大学院医学研究科修了 学位取得

●職歴

平成13年4月 金沢大学医学部附属病院 整形外科助手
 平成15年4月 金沢大学医学部附属病院 整形外科講師
 平成20年4月 金沢大学 整形外科医局長を兼任
 (平成22年6月まで)
 平成22年6月 金沢大学附属病院脊椎脊髄外科科長
 (臨床教授)
 平成22年7月 金沢大学医薬保健学域機能再建学
 (整形外科) 准教授
 平成27年3月 タイ・コンケン大学 客員教授 (現在に至る)
 平成29年9月 タイ・チェンマイ大学 客員教授
 平成31年2月 名古屋市立大学大学院医学研究科整形外科
 学分野 主任教授 (現在に至る)
 令和2年4月 名古屋市立大学運動器スポーツ先進医学寄
 附講座 教授 (兼任)
 令和6年4月 名古屋市立大学運動器健康増進医学寄附講座
 教授 (兼任)
 令和6年4月 名古屋市立大学医学部附属病院
 院長補佐 (兼任)
 令和6年4月 名古屋市立大学医学部附属病院
 研修センター長 (兼任)

●所属学会 受賞歴

日本整形外科学会認定整形外科専門医
 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
 日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

日本整形外科学会 (代議員)
 日本脊椎脊髄病学会 (評議員)
 中部日本整形外科災害外科学会 (評議員)
 日本腰痛学会 (評議員)
 日本脊椎前方側方進入手術学会 (幹事)
 東海脊椎脊髄病研究会 (常任幹事)

- ・ 吉田育英会財団海外派遣留学生 (1998)
- ・ 骨粗鬆症財団 Lilly研究助成 (2004)
- ・ 日本脊椎脊髄病学会 第2回Asia Traveling Fellowship (2007)
- ・ 第9回日本骨粗鬆症学会 優秀演題賞 (2007)
- ・ 第110回中部日本整形外科災害外科学会 学会奨励賞 (2008)
- ・ 整形災害外科学研究助成財団 メジカルビュー社奨励賞 (2009)
- ・ 日本整形外科学会・香港骨科医学会 Exchange Traveling Fellow (2010)
- ・ 日本医師会医学研究奨励賞 (2011)
- ・ がん集学的治療研究財団 第32回一般研究助成 (2011)
- ・ 平成23年度 (第43回) 高松宮妃癌研究基金 研究助成 (2012)
- ・ アステラス病態代謝研究会 平成24年度研究助成 (2012)
- ・ The Best Doctors in Japan 2012-2013
- ・ 三谷研究開発支援財団 平成26年度研究助成 (2014)
- ・ The Best Doctors in Japan 2014-2015
- ・ The Best Doctors in Japan 2016-2017
- ・ タイ王国政府教育省より感謝状授与 (2016)
- ・ 第10回金沢市医師会金沢医学館記念医学賞 (2016)
- ・ 厚生労働省石川労働局平成29年度労働行政関係功労者表彰 (2017)
- ・ The Best Doctors in Japan 2018-2019
- ・ The Best Doctors in Japan 2020-2021
- ・ The Best Doctors in Japan 2022-2023
- ・ 第12回杉浦地域医療振興助成 (2023)
- ・ The Best Doctors in Japan 2024-2025

座 長



福岡県医師会副会長

平田 泰彦

●学歴

昭和53年 3 月 九州大学医学部卒業

●職歴

昭和53年 6 月 九州大学医学部附属病院内科医員（研修医）

昭和54年 4 月 九州厚生年金病院医員

昭和55年10月 九州大学医学部第一内科研究生

昭和56年 7 月 九州大学医学部附属病院第一内科医員

昭和59年 5 月 唐津赤十字病院医員

昭和60年 5 月 米国カンザス大学メディカルセンター微生物教室
リサーチ・アソシエート

昭和62年 6 月 唐津赤十字病院内科副部長

平成元年 4 月 九州大学医学部附属病院（第一内科）助手

平成 4 年 8 月 平田内科・胃腸科クリニック開業

●経歴

平成16年 4 月 福岡市医師会理事

平成16年 4 月 福岡県医師会予備代議員

平成24年 4 月 福岡県医師会代議員

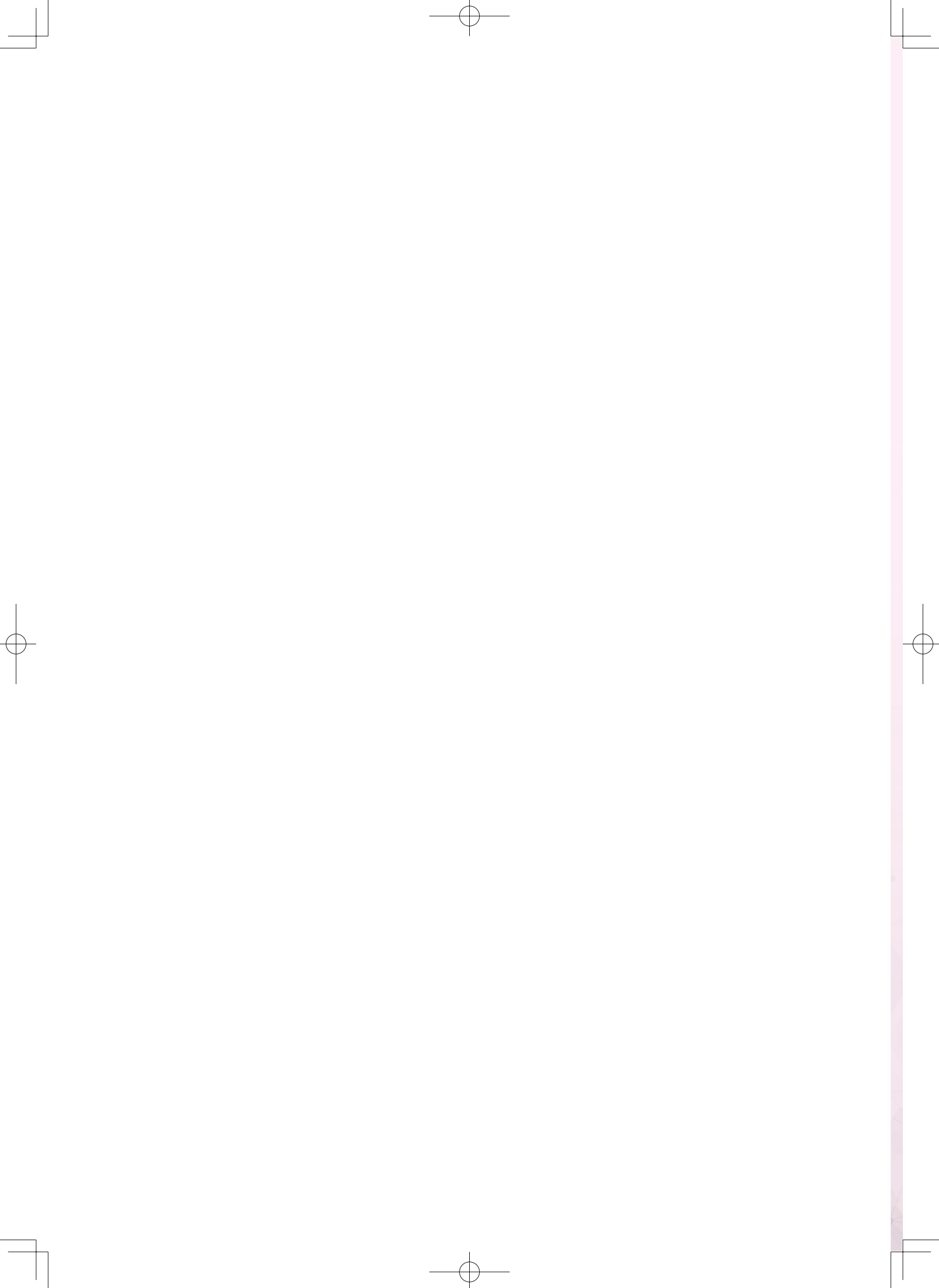
平成24年 4 月 日本医師会予備代議員

平成24年 6 月 福岡市医師会副会長

平成26年 6 月 日本医師会代議員

令和 2 年 6 月 福岡市医師会会長

令和 6 年 6 月 福岡県医師会副会長



13:50~15:30

シンポジウム I

シンポジウム
共通テーマ

組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現

「様々な立場からの声」

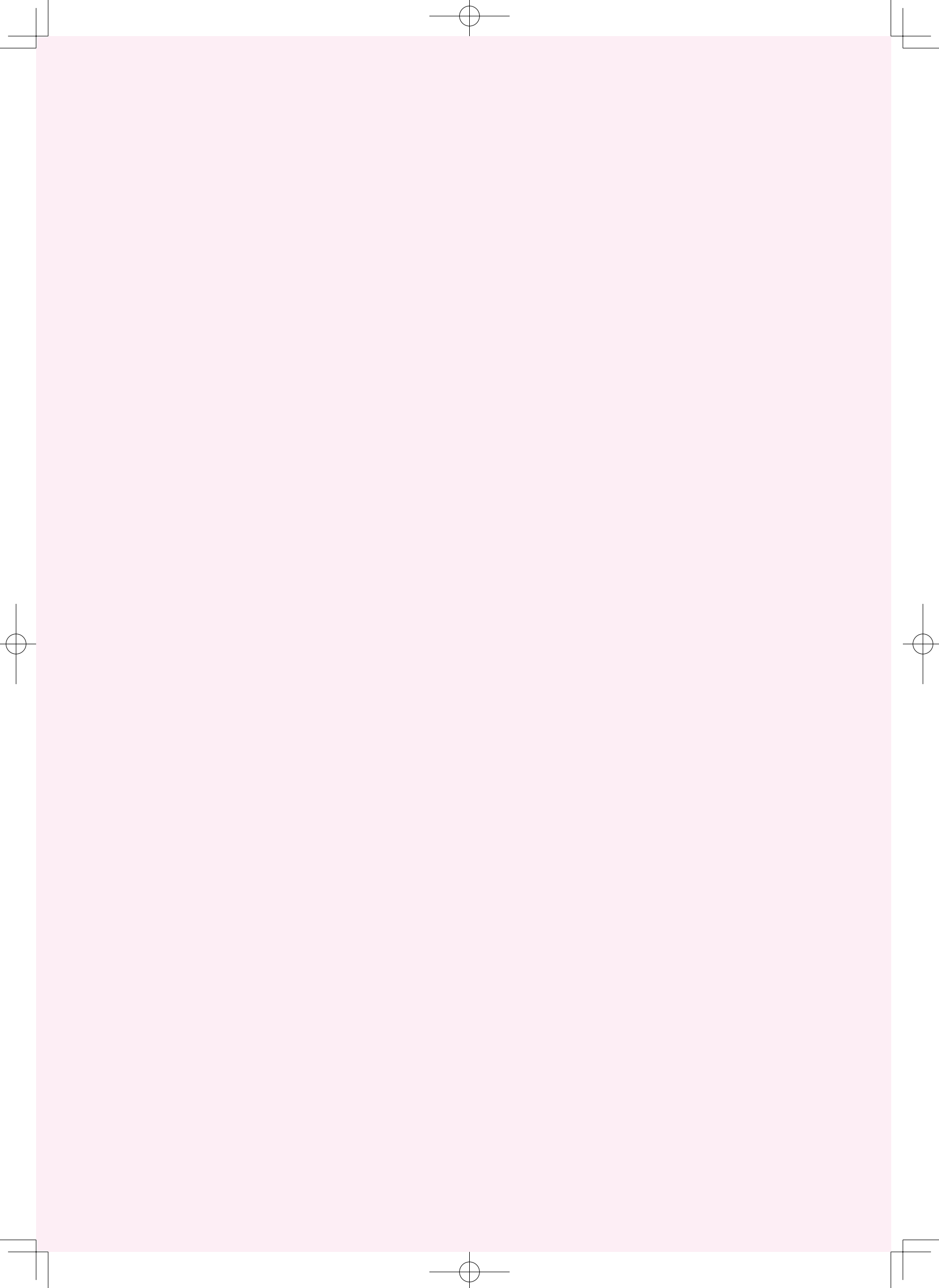
日本医師会勤務医委員会委員長・福岡県医師会副会長

一宮 仁

日本医師会勤務医委員会委員・香川県医師会副会長
・香川県済生会病院病院長

若林 久男

座
長



座 長



日本医師会勤務医委員会委員長
福岡県医師会副会長

一宮 仁

●学歴

昭和51年 3 月 九州大学医学部卒業

●職歴

昭和51年 6 月 九州大学医学部附属病院研修医
昭和53年 4 月 九州大学医学部第一外科
昭和62年10月 スウェーデンカロリンスカ研究所研究員
平成 2 年 1 月 九州大学医学部附属病院助手・講師
平成 6 年 4 月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院
平成21年 4 月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院副院長
平成26年 4 月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院病院長
令和 4 年10月 国家公務員共済組合連合会浜の町病院顧問

●経歴

平成26年 7 月 福岡市医師会理事・福岡市勤務医会会長
平成28年 7 月 福岡市医師会常任理事
平成30年 7 月 福岡県医師会理事
平成30年 8 月 日本医師会勤務医委員会委員
令和 2 年 6 月 福岡県医師会常任理事
令和 4 年 6 月 福岡県医師会副会長
令和 6 年10月 日本医師会勤務医委員会委員長



日本医師会勤務医委員会委員
香川県医師会副会長
香川県済生会病院病院長

若林 久男

●学歴

1983年 3 月 愛媛大学医学部卒業

●職歴

1983年 6 月 愛媛大学医学部卒業後 1 年間愛媛大学第 3 内科で研修し、
1984年香川大学第 1 外科（現 消化器外科）入局
1989年 7 月 ECFMG certificate取得後Clinical Fellowとして米国Medical
College of Virginia、Transplantation Surgeryに臨床研修留学
2004年 4 月 香川大学消化器外科講師、病院准教授
2008年 4 月 香川県済生会病院副院長
2014年 4 月 香川県済生会病院院長
2018年 6 月 香川県医師会副会長
2020年10月 日本医師会勤務医委員会委員
香川大学医学部臨床教授、香川県社会保険診療報酬支払基金審査委員、日
医代議員



大学病院改革と医師会

久留米大学病院病院長

野村 政壽

大学病院は医学教育と医学研究を行うとともに、教育・研究に資する診療、特に高度で専門的な医療を提供してきました。しかし、地域医療において大学病院が担う役割・機能は拡大し、地域の医療提供体制を確保・維持する上で欠かせない中核的な存在となっています。このため、教育・研究に対する診療の比重が増し、若手医師をはじめとする職員の診療に従事する時間が増える一方で、教育・研究に従事する時間が著しく減少しています。さらに、医師の働き方改革に伴い、2024年4月より医師の時間外・休日労働の上限規制が開始され、大学病院の役割・機能に大きな影響を与えることが懸念されています。

人口1000人当たりの医療資源をOECD38カ国で比較すると、わが国の医師数は2.5人で33位、女性医師の割合は21.8%で38位（最下位）、病床数は12.8で1位、医師1人当たりの年間外来診療件数は5000件で2位という結果が出ています（OECD Health Statistics 2021）。これにより、少ない医師が多数の入院患者や外来患者を担当し、多くの市中の病院を掛け持ちする大学病院医師の姿が浮き彫りになります。医師が生き生きと医療に従事でき、学びやすい環境で心身ともに健康であることは、持続可能な医療提供体制の構築に不可欠です。そのためには、他職種へのタスクシフト／タスクシェアやスマートフォンやAIを活用した診療、デジタル化による効率的な医療提供が求められます。医師の働き方改革は、単に勤務時間の短縮だけではなく、医療の質を高め、患者にとってより良い医療を提供するための重要なステップと位置付けることができます。

医師の働き方改革を進めるには、医師偏在の問題、地域医療構想の実現への三位一体の取り組みが不可欠です。すなわち、地域医療全体を俯瞰した医療提供体制の再構築が求められています。大学病院が現状の医療人材で教育・研究に十分な時間を割き、高度医療を提供するためには、地域医療機関との診療や教育の役割分担と連携が必要です。この大学病院改革を成功させるためには、医師会の強力な支援と協力が不可欠です。医師会組織は地域医療構想の実現において極めて重要な役割を果たし、地域包括ケアの実践にも深く関与しています。

日本の医療が変革期を迎えている今、大学病院と医師会との緊密な連携と協力体制の構築が不可欠であり、それが日本の医療の未来を切り開く鍵となるでしょう。

PROFILE

野村 政壽 (のむら まさとし)

●現職

久留米大学病院 病院長
学校法人久留米大学 理事

●学歴・職歴

1988年3月 九州大学医学部卒業
1988年6月 九州大学医学部附属病院 研修医
(第一内科/第三内科)
1990年4月 九州大学大学院医学系研究科分子生命科学
1995年4月 九州大学医学部附属病院医員 (第三内科)
1996年4月 日本学術振興会特別研究員
1996年5月 ハーバード大学医学部MGH心血管研究所
博士研究員
1999年6月 九州大学大学院医学研究院助手
(病態制御内科)
1999年10月 九州大学医学部附属病院助手 (総合診療部)
2002年7月 九州大学病院助手 (第三内科)
2009年3月 九州大学病院内分泌代謝・糖尿病内科 講師
2017年4月 九州大学大学院医学研究院病態制御内科
准教授
2017年7月 久留米大学医学部内科学講座内分泌代謝内科
主任教授
2020年4月 久留米大学病院 副院長／臨床研究センター長
2023年4月 久留米大学病院 病院長／
学校法人久留米大学 理事

●所属学会

日本内科学会 (評議員)
日本糖尿病学会 (学術評議員、九州支部幹事)
日本肥満学会
日本内分泌学会 (評議員、九州支部長)
日本体質医学会 (理事)
日本老年医学会
日本病態栄養学会 (評議員)
日本糖尿病合併症学会 (評議員)
日本動脈硬化学会
西日本肥満研究会 (世話人)
日本ステロイドホルモン学会 (理事)
日本骨粗鬆症学会
欧州糖尿病学会
米国内分泌学会

●賞罰

平成7年度 井上研究奨励賞 (井上学術振興財団)
平成11年度 貝原奨励賞 (貝原守一医学振興財団)
平成13年度 日本内分泌学会研究奨励賞 (日本内分泌学会)
平成16年度 武田科学振興財団医学系研究助成 (武田科学振興財団)
平成24年度 日本医師会医学研究奨励賞 (日本医師会)



基幹病院の抱える問題と その対策

国立病院機構九州医療センター広域災害・救命救急センターセンター長

野田 英一郎

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックは日本の医療が抱える問題点を明らかにした。OECDや厚生労働省の集計では、日本は主要国内でも有数の病床数（人口あたり）を有し、有数の急性期病床数も有しているが、医師数、看護師数（人口あたり）が少ないために、極端に病床あたりの医師数、看護師数が少ないのである。病院あたりの病床数が少ないことも相まって、病院で受け入れられるCOVID-19患者は制限され、人口あたりのCOVID-19患者は少ないにも関わらず、自宅療養を余儀なくされた。

もちろんこのことはコロナ前から指摘されており、問題視されていた。とすると、日本の医療が抱える問題点を明らかにした、のではなく、問題点により診療が影響を受けた、というのが正しい表現であろう。

過去、医療機関は病床の稼働状況を共有せず、患者の奪い合いをして、収入源の確保をしてきた。超高齢社会を経て、いずれ人口減社会を迎えようとする今、これまでと同じような病床数、役割分担では病院経営は立ち行かなくなるのは目に見えている。それを修正するための地域医療構想であったはずだが、貧乏くじの押し付け合いのような気がしてならない。また一方で病床を支える医師についても診療科、地域格差は全く是正されず、むしろ悪化してさえ見える。

医療機関は公的、私的機関が混在しており、さらに経営母体も全国、地域とさまざまであるが、サービスの提供先は同じ地域、地元民である。ハード面として地域の人口動態とそれに伴う疾病構造の変化、その推移予測に応じた役割分担と病床確保計画が必要であり、ソフト面として、診療科格差、地域格差を減らすためには、医師の診療科選択の自由、職場選択の自由をある程度制限する必要があるであろう。

福岡県ではコロナ禍において、GoシートというGoogleスプレッドシートを用いた、リアルタイムの病床情報共有システムを立ち上げ、入院調整、救急搬送に活用し、医療機関ごとの病床確保や役割分担、そして負担の平坦化を行うことができた。有事に立ち上げたシステムではあるが、平時にこそ活用できるシステムと判断し、FRESH（First-line REgional bed-control System for public Health）と名付けた。お互いの医療機関の重症度、疾患別、診療科別稼働状況などを共有することで、役割分担と病床削減を行いながらも効率的な病床運用ができると考える。

PROFILE

野田 英一郎（のだ えいいちろう）

平成7年 九州大学医学部卒業
同年 九州大学医学部附属病院（麻酔科蘇生科）で
初期研修
日本大学医学部附属板橋病院救命救急センター、
九州大学病院救命救急センター、福岡市民病院
救急科勤務を経て
令和2年4月より現職

日本麻酔科学会認定麻酔科医、認定指導医
日本救急医学会救急科専門医
日本DMAT隊員（統括DMAT）
福岡県災害医療コーディネーター



へき地診療所の運営とへき地医療 に携わる医師に求められる支援

公益社団法人 地域医療振興協会飯塚市立病院内科科長

長澤 滋裕

へき地診療所は、医療に恵まれない地域住民の医療を確保することを目的として、各自治体が設置し運営されている。2023年12月1日時点において、福岡県内には10カ所のへき地診療所（内1カ所は歯科診療所）が設置されているが、へき地診療所における医療従事者の確保、取り分け医師の確保は難しい状態である。実際に、本県にある9カ所の医科診療所の内、政令指定都市である福岡市・北九州市が設置している2カ所（福岡市立玄界診療所、北九州市立藍島診療所）と、社会医療法人が運営している1カ所（社会医療法人天神会 迎春診療所）を除く、6カ所の診療所においては、福岡県から毎年自治医科大学の卒業生を派遣している状態である。派遣された医師は、へき地診療所での診療業務の他に、地域の保健業務や健康増進事業にも携わっている。

へき地診療に携わる医師が直面している課題は、『キャリア形成』と『出産・子育て』である。自治医科大学を卒業した医師は多少の差異はあるが、卒業後4～9年目の間に5年間へき地診療に携わることになる。医師として実力や経験を積み、最も成長が期待できると言っても過言ではない期間に、へき地医療に従事することになる。医療を以ってして支えることになる患者の生活や人生を、間近で感じることができる地域医療は、医師としての人格形成において、かけがえのない経験となることは間違いなが、医師としてのキャリアアップを図り、へき地診療の診療水準の向上に貢献することも重要であると考え。2018年に始まった新専門医制度の導入により、へき地医療に携わる若手医師のキャリア形成は、手探りの状態が続いており、特に研修プログラム策定における基幹施設の協力を取り付けるのに苦労している。本協議会を通じて協力可能な医療機関を募りたい次第である。

出産・子育てにおいては、女性医師や子育てに積極的に関わろうとする医師の増加により、課題が顕在化してきている。現在、へき地診療に関わる医師が産前産後休業や育児休業を取得する場合には、へき地医療拠点病院を中心とする代診医の派遣で対応しているが、当初の制度設計が学会や冠婚葬祭などの短期間の代診を想定しており、長期間の代診に対応できない。このため、へき地医療拠点病院の制度拡充や人材資源のプーリング（集約化・共有化）が必要である。

PROFILE

長澤 滋裕（ながさわ しげひろ）

●学歴

平成27年3月 自治医科大学医学部卒業

●職歴

平成27年4月 独立行政法人国立病院機構九州医療センター（初期臨床研修）

平成29年4月 公益社団法人地域医療振興協会飯塚市立病院 内科

平成30年4月 地方独立行政法人川崎町立病院 内科

令和元年4月 東峰村立診療所

令和3年4月 飯塚病院 肝臓内科

令和4年4月 みやこ町立やまびこ診療所

令和6年4月 公益社団法人 地域医療振興協会 飯塚市立病院 内科

●所属学会

日本内科学会

日本肝臓学会

日本消化器病学会消化器病学会

日本消化器内視鏡学会

●資格・表彰等

日本内科学会 認定内科医

日本内科学会 内科指導医



日本とドイツの医療現場で感じたこと。 全ての医師にとって働きやすい環境とは？

日本医師会ジュニアドクターズネットワーク国際担当役員
・帝京大学医学部附属病院循環器内科 岡本 真希

日本・ドイツの2カ国の医師免許を有し、両国で臨床医として働いた経験を通じて私の感じた日本の医療の素晴らしさと、同時に感じた個々の医師の誠意に頼った持続可能性の低い働き方に伴う日本の医療の脆弱性。働き方や医療システム、コロナ禍の際の対応など、日本とドイツの比較をする中で感じた気づきをご紹介しますことで、より働きやすい勤務医の環境を模索・提案していく。「若手や女性医師」でも働きやすい、ではなくベテラン・若手/男女の区別なく、「全ての医師」が働きやすく、それぞれのライフステージに応じた働き方の選択ができる理想の勤務医労働環境を実現するためには。

PROFILE

岡本 真希 (おかもと まき)

●略歴

帝京大学医学部附属病院 循環器内科

日本医師会ジュニアドクターズネットワーク (JMA-JDN)
国際担当役員

2011年佐賀大学医学部卒業後、京都府の洛和会音羽病院にて臨床・専門研修修了。同病院にて循環器内科医として勤務。2017年よりドイツ・ブランデンブルク心臓病センターのリサーチフェローとして留学、研究の傍らドイツ語習得し、2019年にドイツの医師活動許可を取得、循環器

内科医として臨床勤務を開始。2021年にはドイツの医師免許（本免許）を取得。帰国後は帝京大学医学部附属病院循環器内科に勤務。循環器内科として働く傍ら、2015年より日本医師会の若手医師ネットワーク（JMA-JDN）で活動を開始、副代表や国際担当役員を務め、2019-2021年には世界医師会ジュニアドクターズネットワーク（WMA-JDN）のCommunication Directorとして執行委員も務め、世界医師会総会やJDN biannual meetingなど世界各国で行われる国際会議にも多数参加した。

15:40~17:20

シンポジウムⅡ

シンポジウム
共通テーマ

組織力強化に向けた勤務医の意見集約と実現

「働きたい病院：組織改革と業務改善」

福岡県医師会理事

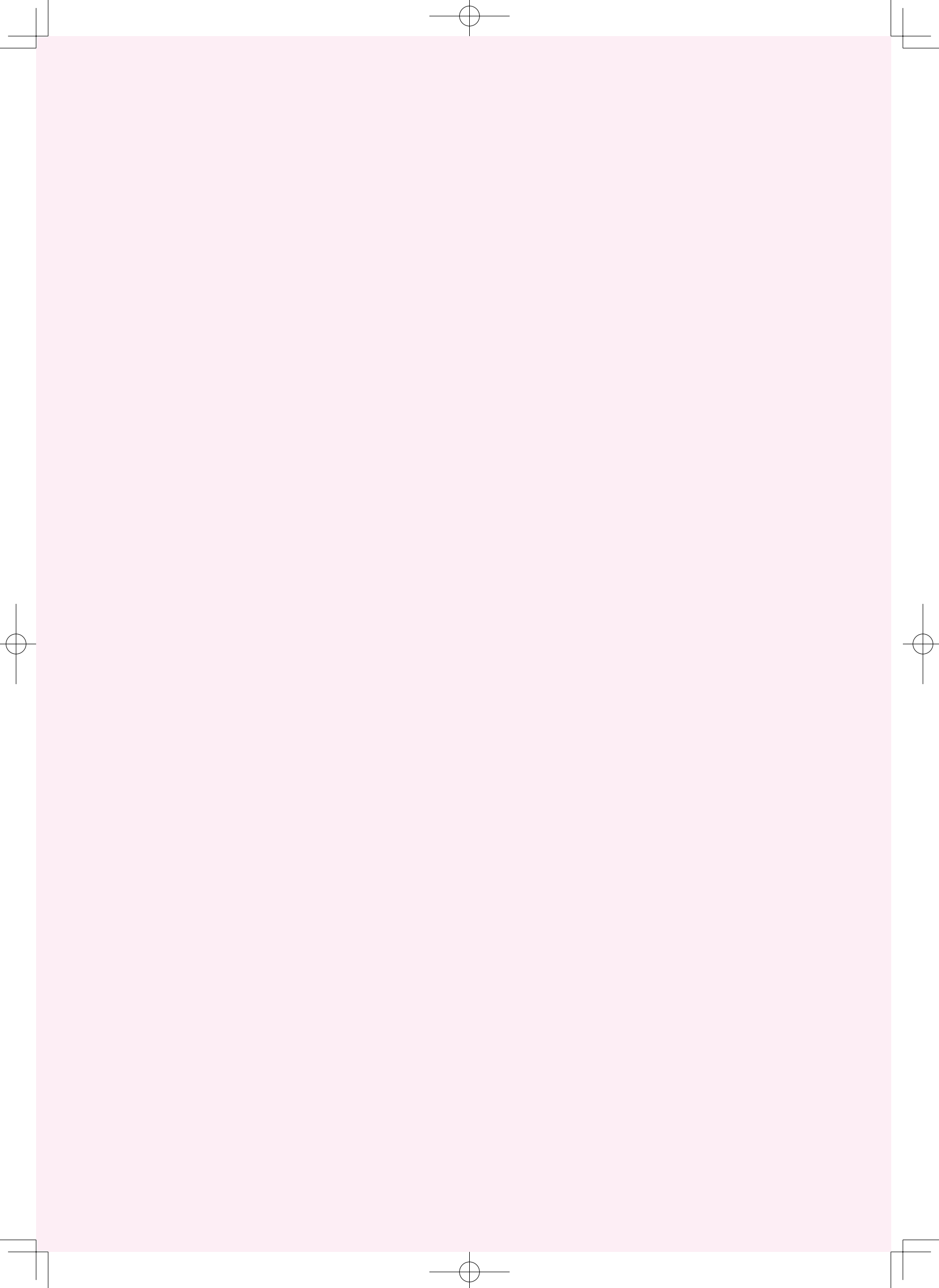
横倉 義典

福岡県医師会勤務医部会委員会副委員長

福岡市民病院副院長

平川 勝之

座
長



座 長



福岡県医師会理事

横倉 義典

●学歴

平成12年 3 月 久留米大学医学部卒業
平成20年 3 月 久留米大学大学院医学研究科卒業

●職歴

平成13年 4 月 久留米大学外科学講座入局
平成21年 4 月 ドイツ連邦共和国ミュンスター大学血管外科
St.Franziskus病院留学
平成22年 4 月 医療法人弘恵会ヨコクラ病院勤務
平成24年 4 月 医療法人弘恵会ヨコクラ病院院長代行
平成27年12月 医療法人弘恵会ヨコクラ病院院長

●経歴

平成28年 5 月 福岡県私設病院協会理事
平成28年 6 月 大牟田医師会理事
平成29年 5 月 福岡県医療法人協会理事
平成30年 6 月 福岡県病院協会理事
令和 2 年 6 月 福岡県医師会理事



福岡県医師会勤務医部会
委員会副委員長
福岡市民病院副院長

平川 勝之

●学歴

昭和61年 3 月 福岡大学医学部卒業
平成 4 年 3 月 福岡大学大学院医学研究科卒業

●職歴

昭和61年 6 月 福岡大学病院脳神経外科入局
平成10年 4 月 静岡県立総合病院脳神経外科医長
平成10年10月 福岡大学病院脳神経外科 救命救急センター
平成15年 4 月 福岡市民病院脳神経外科部長
平成17年 4 月 福岡市民病院ICU・救急部部長兼任
平成20年 4 月 福岡市民病院医療主幹
平成22年 4 月 地方独立行政法人福岡市立病院機構
福岡市民病院診療統括部長（独法化に伴い役職名変更）
令和 6 年 6 月 同 副院長

●認定医 その他

医学博士
福岡大学医学部脳神経外科学臨床教授
日本脳神経外科学会認定専門医指導医
日本脳卒中学会専門医
日本脊髄外科学会認定医
福岡市医師会常任理事
福岡市医師会勤務医会理事
福岡県医師会代議員
福岡地域救急業務メディカルコントロール協議会会長
NPO法人福岡地域救急医療連携推進協会理事長



統合による病院内の変化、地域医療の変化 — 乗り越えるべき問題は多いが、明るい未来も見えてくる —

掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター企業長兼院長
宮地 正彦

当院は新研修医制度以降、研修医の減少に伴い、大学からの医師派遣が滞り、診療科の縮小や閉鎖、医療の縮小、経営の悪化により、掛川市立総合病院450床と袋井市立袋井市民病院400床の2つの自治体病院が日本で初めて自治体主導で統合し、2013年に500床の地域の基幹総合病院として開院した。統合により断らない救急医療を行うことが可能となり、外来患者数、入院患者数、救急搬送件数が増加し、病院の経常収支も改善した。旧2病院では5大学から、統合後は3大学から医師が派遣されたが、統合前からの医師不足問題は解決されず、大学からの医師派遣は徐々に滞り、常勤医師数は80人から90人ほどの増加に留まっている。

初期研修医を集めることが今後の当院の命運を握っていると考え、2017年から教育を強化し、初期研修医を増加させる方針を打ち出した。それにより2018年度から5年間14人枠をフルマッチし、全員医師国家試験に合格している。全国初期研修医共通能力試験では2021年度は642病院中15位と優秀に研修医が成長した。救急科医の6人から1人への減少による救急科主体から全科医師による救急医療を研修医が支えた。専攻医として当院に残る研修医が少なかったが、2024年度は初期研修医の14人中12人が専攻医として当院に残った。彼らが専攻医として残ることで常勤医の負担が軽減した。

地域2病院目の地域がん診療連携拠点病院の指定を2023年に受けることができた。またコロナ禍において静岡県内から重症感染者を断ることなく受け入れ、静岡県の医療にも貢献できた。

医師の業務量が増えたにもかかわらず、医師事務作業補助者の増員、会議の減少・メール会議化、自宅で電子カルテを閲覧できるシステムの導入などの医師業務軽減策により、時間外労働時間が年間1200、960、720時間以上の医師数は2017年度では5名、3名、14名であったが、2022年度は0名、0名、3名と著明に減少した。

2017年度から在院日数の短縮化を行うことで入院診療単価が上昇し、2018年度に経常収支が開院後初めて黒字化した。在院日数は2017年度以前が10.5日ほどであったが、それ以降は9日ほどに短縮したことで、コロナ禍においても感染者対応病床を多くし、入院患者は80人程減少したにも関わらず、医業尾収入を維持できた。しかし支出も多く再度赤字に転落したが、回復しつつある。

教育の強化、救急科の復活、癌診療の強化を並行して行うことで、働き方改革、病院経営に好結果が生まれた。緩和ケア病床を2023年に開設し、在宅医療へ繋げている。今後は病院外への活動を増やし、地域との連携を深め、当院の負担をコントロールしつつ、地域医療の向上を目指す。

「できないではなく、やるために考え、工夫し、実行し、結果を出す」をモットーに、ファーストペンギンになることを恐れず、改革し、前に進み続けたいと考えている。

PROFILE

宮地 正彦 (みやち まさひこ)

●学歴

1974年3月31日 県立岐阜高校卒業

1980年3月31日 名古屋大学医学部卒業

1991年10月1日－1992年2月28日

国家公務員等共済組合連合会東海病院医員 (外科)

1992年3月1日－1997年6月30日

名古屋大学医学部助手 (外科学第一講座)

1997年7月1日－1997年9月30日

名古屋大学医学部講師 (外科学第一講座)

1997年10月1日－2001年3月31日

愛知医科大学医学部講師 (外科学第二講座)

2001年4月1日－2001年5月15日

愛知医科大学医学部講師 (外科学講座)

2001年5月16日－2009年3月31日

愛知医科大学医学部助教授 (外科学講座)

2009年4月1日－2017年3月31日

愛知医科大学医学部特任教授 (外科学講座)

2017年4月1日－現在

中東遠総合医療センター企業長兼院長

ChutoenGeneralMedicalCenter

●職歴

1980年4月1日－1981年3月31日

大垣市民病院臨床研修医 (外科)

1981年4月1日－1985年3月31日

大垣市民病院医員 (外科)

1985年4月1日－1987年3月31日

岡崎国立研究機構生理学研究所特別協力研究員

1987年4月1日－1988年6月30日

名古屋通信病院医員 (外科)、

名古屋大学医学部研究員

1988年7月1日－1989年8月31日

名古屋大学医学部医員 (外科学第一講座)

1989年9月1日－1991年8月31日

外国留学

(米国、Johns Hopkins大学、Research Fellow)



医療DXの考え方と対応

九州大学大学院医学研究院医療情報学講座教授

中島 直樹

日本の「医療DX」には異なる二つの意味がある。一つは内閣官房の医療DX推進本部による「医療DX政策」で日本における医療DXのインフラ（基盤）を構築する事業である。もう一つは世界的なDX潮流の中の医療分野の社会変革像としての「真の医療DX」である。

日本では、多くの産業分野で「デジタル化の周回遅れ」が指摘されてきた。医療分野でも施設数ベースの電子カルテ化率は50.2%（2020年厚労省調査）であり、施設間のデジタル連携の普及はさらに遅い。これら施設内や施設間のデジタル化が医療DXのインフラであることは論を俟たず、つまり日本にはそのインフラさえできていない。

そこで医療DX政策では、日本において2030年度までに医療DXのインフラの構築を目指している。例えば、オンライン資格確認ネットワークを活用した安全な医療ネットワークの確保、マイナポータルの整備、マイナ保険証での国民や患者の認証、HPKIカードでの医療者認証による電子処方箋、3文書6情報に関する電子カルテ情報の施設間や患者との共有、目標100%の電子カルテ普及率などである。政府の積極的な推進意欲は伝わるものの、現場の医師を始めとする医療スタッフや患者・国民の反発も多い。その原因は、医療DX政策の説明不足と真の医療DXへの理解不足などによるところが大きい。

電気という別のインフラで説明しよう。明治期に電線・電柱を設置し始めた頃は、その理由は「電灯をともし」であった。インフラのみを構築してその上のサービスが何もないと理解は得られないので、メリットを「電灯」とせざるを得なかったが、当時もランプがあったため「電灯」に大きなメリットが感じられず反発もあっただろう。しかし、この電気のインフラを用いて、家庭にも電話、テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、PC、スマホなどの電化製品が導入された。初期のインフラ構築当時には想像できない世界である。

これと同様に、紙の処方箋や紹介状がデジタル化することの医療施設にとってのメリットは限定的である一方で、その代償としての手間や費用の方が気になってしまう。しかしこのインフラがなければ、その次の、我々が想像することもできない真の医療DXは訪れることはない。

世界のDX競争が激化する一方で、日本には超少子高齢社会が到来し、もはや真の医療DXを進めないという選択肢はない。

本講演では、医療DX全般について説明した後に、現在の状況、今後の可能性、対応などについて説明を加えたい。

PROFILE

中島 直樹（なかしま なおき）

●略歴

1987年 九州大学医学部卒業、第三内科入局、糖尿病研究室

1996年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校研究員

2000年 九州大学病院 第三内科助手

2002年 同 医療情報部講師、准教授を経て

2014年～ 同 メディカル・インフォメーションセンター
教授・センター長

2022年～ 九州大学病院 副病院長、九州大学総長補佐

2023年～ 九州大学 大学院 医学研究院 医療情報学分野
教授、九州大学健康医療DX推進部門長

現在に至る

医学博士：医療情報学、糖尿病学、グローバルヘルス

日本医療情報学会理事（前代表理事）、日本糖尿病学会学
術評議員、日本学会議連携会員、厚生労働省保健医療情

報標準化会議構成員、九州工業大学客員教授、他



働き方改革で揺れる 周産期母子医療センター

国立病院機構小倉医療センター産婦人科部長

川上 浩介

小倉医療センターは地域周産期母子医療センターであり、福岡県北部の北九州・京築医療圏の産婦人科急変対応を担っている。産婦人科業務は分娩対応などで時間外対応を求められることも多く、最適業務配分を事前予測することが困難である。そのため当直制では多大な時間外超過勤務を行ってきたが、2024年4月に開始された医師の働き方改革に伴い、2交代制を導入した。この変更はスタッフのワークライフバランスの向上に寄与し、勤務時間の短縮が職場満足度と働きがいの向上をもたらした。特に、睡眠不足による集中力の低下が解消され、手術や外来診療の効率が向上したとの意見が寄せられた。

しかし、2交代制の導入によって、日中の業務負担が増加し、若手スタッフの教育の質が低下するなどの課題も浮かび上がっている。これに対応するため、業務の優先順位を見直し、電子カルテやIT技術を活用して作業効率を向上させる取り組みを進めている。また、短時間勤務者や医療クラークの導入により、スタッフが多様な業務を効率的に遂行できるよう努力を続けている。

教育面では、若手スタッフが継続的な患者ケアの機会を減少させないよう、症例カンファレンスの充実、上級医によるメンターシッププログラムの強化、ドライラボでのトレーニングを経た手術参加の促進、緊急対応のシミュレーショントレーニング、定期的なフィードバックを提供している。これらの教育プログラムは、専門スキルの向上だけでなく、職業的充実感や成就感を高めるために不可欠であると考えている。

勤務の2交代制への移行に伴い、担当医を主治医制からチーム制へ変更した。患者からの一貫したケアへの要望に応えるため、チーム医療の効率性とのバランスを取る難しさに直面している。これに対処するため、患者教育を強化し、ケースマネージャーが中心となって情報を一元化し、患者の声をチーム内で共有する体制を整えている。さらに、医療の質を担保するため、交代時間にチームカンファレンスを行い、患者ケアの方針や問題点を共有している。

急患対応の即応性を確保するため、オンコールシステムや追加スタッフの柔軟な配置は必要となる。周産期母子医療センターとしての責務を果たすため、これらの取り組みを継続し、地域社会に質の高い母子ケアを提供することが重要である。2交代制は多くの利点を有している一方で、継続的な評価と改善が必要である。

PROFILE

川上 浩介 (かわかみ こうすけ)

●学歴

平成17年 佐賀大学医学部医学科卒業
平成28年 久留米大学産科婦人科学講座入局
令和5年 久留米大学医学博士学位授与

●職歴

初期臨床研修中にエンゼル病院で多くのお産を見学して産婦人科医の道を志す
北九州市内の周産期母子医療センターを渡り歩き、産婦人科後期研修を行う
平成22年 国立病院機構小倉医療センター 産婦人科医師
令和5年 国立病院機構小倉医療センター 産婦人科部長
現職

●認定医 その他

日本産科婦人科学会 専門医・指導医
周産期（母体・胎児）専門医・指導医・評議員
臨床遺伝専門医
日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医
J-CIMELS ゴールドインストラクター コースディレクター
ALSO-Japan指定認定インストラクター コースディレクター
NCPRインストラクター
福岡県産婦人科医会理事
北九州市産婦人科医会理事
J-CIMELS FUKUOKA WG副委員長



働きたい職場をめざして

福岡県医師会理事・JCHO久留米総合病院名誉院長

田中 真紀

令和6年4月、「医師の働き方改革」が開始した。管理者として暫定期間の5年をかけて宿日直許可獲得、労働時間管理の方法、タスクシフティングの見直しに協議を重ね、とりわけ医師には就業規則を理解してもらうことに努力してきた。

あらためて働きたい職場とは何だろうと考えると、若手医師は多くの症例を経験できて知識や技術を得ること、中堅の医師は自分の目指す医療を展開させられること、管理職者では医療だけでなく病院の運営に関わっているという意識を持てることが挙げられるだろう。同時に自分自身の時間を確保できること、とくに子育てを含む家庭生活の時間・趣味などに費やす時間・年休や休暇を遠慮なく取れることが重要な要素となる。

2017年厚生労働省報告「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書17」では、「医療界にとっては、今後も貴重な人材としての女性の比重は高まっていくだろう。このことを十分に念頭に置いて、重点的・集中的な支援の強化に乗り出すべきである。」とし、出産・育児等のライフ・イベントと仕事との両立を支援するための取り組みが必要であると提言している。

当院では、①3歳に満たない子の養育のために、育児時間短縮勤務や育児時間取得の制度の利用、②未就学児養育のため当直業務を遂行できない場合は、土日・祝祭日の日直を行う、③症例検討会や各種委員会は勤務時間内に行うことを推し進めている。また資質向上のため勉強会は重要であるが参加困難な場合には、診療科ごとにWeb配信やオンデマンドを利用して参加できるよう取り組んでいる。

安全な医療の展開にチーム医療は必須であるが、多職種の意識向上への動機付け、資格取得のためのサポート、看護師の特定行為研修や認定看護師取得研修を積極的に進め、充実したタスクシフティングができるよう進めている。

今回は女性医師の立場、管理者経験者として報告するが、女性医師の増加が見込まれるわが国にとって、女性医師支援の取り組みを行うことが職場環境を改善させ、ひいてはすべての医師にとって働きたい職場になると信じている。

参考資料：厚生労働省（2017）「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書」平成29年4月6日

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000161081.pdf>

PROFILE

田中 眞紀 (たなか まき)

●学歴

昭和55年3月 久留米大学医学部卒業

●職歴

昭和55年4月 久留米大学第一外科学講座入局

昭和57年2月 大牟田市立病院外科医員

昭和57年10月 久留米大学救命救急センター助手

昭和58年2月 久留米大学第一外科助手

昭和58年9月 久留米大学麻酔科有給助手

昭和59年10月 福岡県立朝倉病院外科医員

昭和60年8月 久留米大学第一外科助手

平成1年4月 福岡県立柳川病院外科医長

平成2年6月 社会保険久留米第一病院外科健診部長

平成9年9月 久留米大学外科学講師

平成12年9月 社会保険久留米第一病院外科部長

平成18年12月 久留米大学外科学准教授

平成23年10月 久留米大学医学部客員教授

平成24年4月 社会保険久留米第一病院病院長

平成26年4月 独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO久留米総合病院院長

令和6年4月 独立行政法人地域医療機能推進機構

JCHO久留米総合病院名誉院長

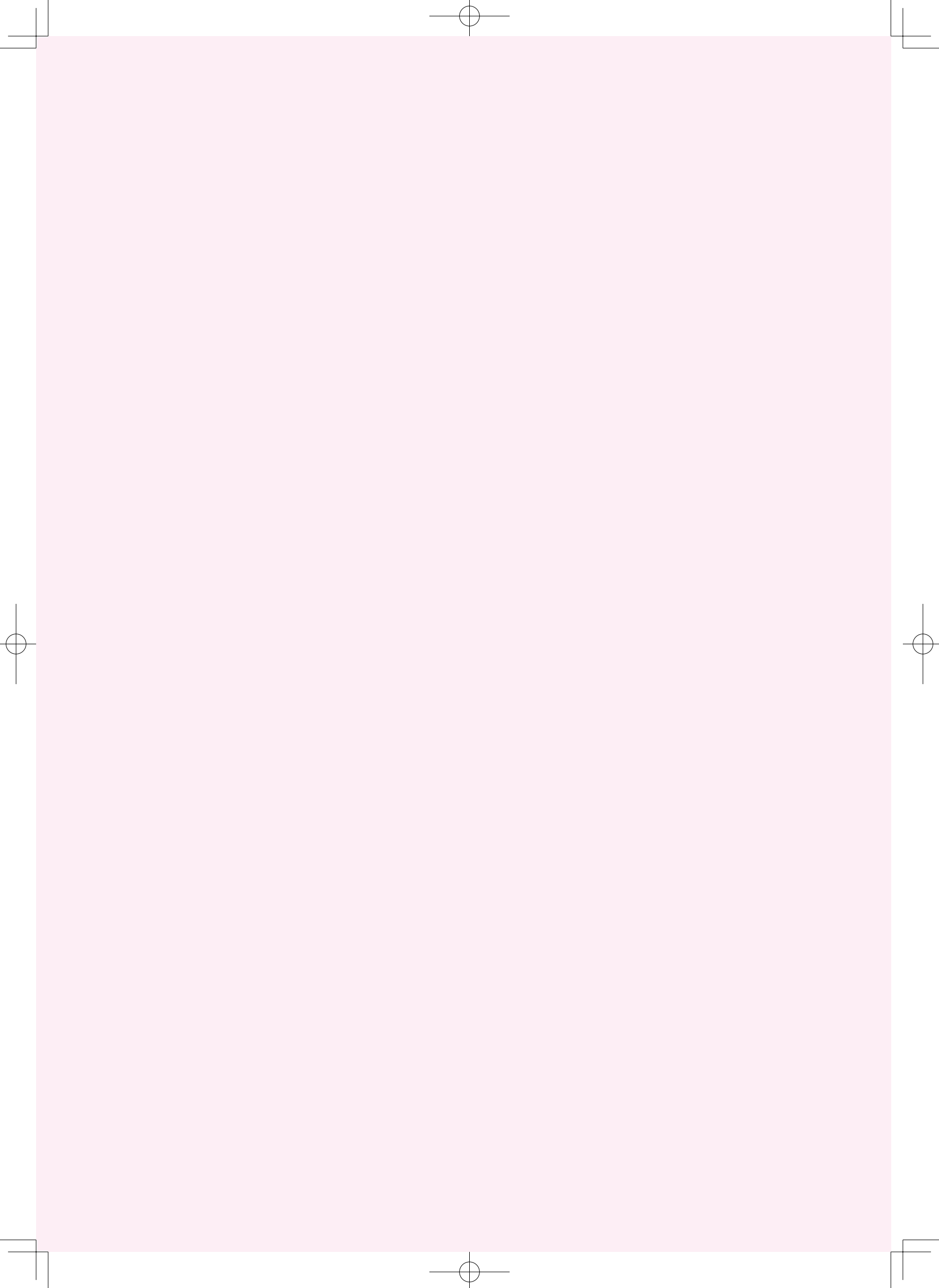
●経歴

平成28年6月 公益社団法人福岡県医師会理事

参加者名簿

令和6年10月11日現在

1. 都道府県別参加者数
2. 来賓・講師・座長等一覧
3. 参加者一覧
4. 日本医師会勤務医委員会委員
福岡県医師会役員
福岡県医師会勤務医部会委員会委員



令和6年度全国医師会勤務医部会連絡協議会参加者数

(令和6年10月11日現在)

ブロック	都道府県	参加者数
北海道・東北	北海道	15
	青森県	6
	岩手県	10
	宮城県	8
	秋田県	2
	山形県	6
	福島県	6
関東・甲信越	茨城県	6
	栃木県	3
	群馬県	2
	埼玉県	10
	千葉県	3
	東京都	3
	神奈川県	22
	新潟県	3
	山梨県	1
	長野県	3
中部	富山県	1
	石川県	4
	岐阜県	5
	静岡県	2
	愛知県	4
	三重県	4

ブロック	都道府県	参加者数
近畿	滋賀県	2
	京都府	5
	大阪府	6
	兵庫県	4
	奈良県	3
	和歌山県	2
中国・四国	鳥取県	3
	島根県	4
	岡山県	2
	広島県	10
	山口県	8
	徳島県	6
	愛媛県	3
	高知県	4
九州・沖縄	福岡県	136
	佐賀県	5
	長崎県	6
	熊本県	9
	大分県	6
	宮崎県	5
	鹿児島県	4
	沖縄県	3
小計		365
日本医師会		22
講師・シンポジスト		10
合計		397

来賓・講師・座長等一覧

(敬称略・順不同)

来賓		福岡県知事	服部誠太郎
		福岡市長	高島宗一郎
特別講演Ⅰ	講師	日本医師会会長	松本 吉郎
	座長	福岡県医師会会長	蓮澤 浩明
特別講演Ⅱ	講師	厚生労働省医政局医療安全推進・医務指導室長	松本 晴樹
		新潟県福祉保健部長	中村 洋心
	座長	福岡県医師会副会長	杉 健三
日本医師会勤務医委員会報告		日本医師会勤務医委員会委員長	一宮 仁
次期担当県挨拶		岩手県医師会会長	本間 博
特別講演Ⅲ	講師	名古屋市立大学整形外科主任教授	村上 英樹
	座長	福岡県医師会副会長	平田 泰彦
シンポジウムⅠ	座長	日本医師会勤務医委員会委員長 福岡県医師会副会長	一宮 仁
		日本医師会勤務医委員会委員 香川県医師会副会長 香川県済生会病院病院長	若林 久男
	シンポジスト	久留米大学病院病院長	野村 政壽
		国立病院機構九州医療センター 広域災害・救命救急センターセンター長	野田英一郎
		公益社団法人地域医療振興協会 飯塚市立病院内科科長	長澤 滋裕
		日本医師会ジュニアドクターズネットワーク 国際担当役員 帝京大学医学部附属病院循環器内科	岡本 真希
シンポジウムⅡ	座長	福岡県医師会理事	横倉 義典
		福岡県医師会勤務医部会委員会副委員長 福岡市民病院副院長	平川 勝之
	シンポジスト	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療 センター企業長兼院長	宮地 正彦
		九州大学大学院医学研究院医療情報学講座教授	中島 直樹
		国立病院機構小倉医療センター産婦人科部長	川上 浩介
		福岡県医師会理事 JCHO久留米総合病院名誉院長	田中 眞紀
総合司会		福岡県医師会常任理事	戸次 鎮史

参加者一覧

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
北海道	北海道医師会常任理事	目 黒 順 一	○	○	○			
	北海道医師会常任理事	水 谷 匡 宏	○	○	○			
	北海道医師会常任理事	寺 本 瑞 絵	○	○	○	○		
	北海道医師会勤務医部会部会長	和 田 卓 郎	○	○	○			
	北海道医師会若手医師専門委員会委員長	橋 口 仁 喜	○	○	○			
	札幌市医師会副会長	西 川 秀 司	○	○	○		○	○
	札幌市医師会理事	清 水 研 吾	○	○	○			
	札幌市勤務医協議会会長	鶴 間 哲 弘	○	○	○			
	札幌市病院協議会幹事	後 藤 啓	○		○			
	旭川市医師会副会長	赤 羽 弘 充	○	○	○			
	旭川市医師会理事	藤 田 結 花	○	○	○		○	○
	北海道医師会事業第二課課長	小 林 淳 子	○	○	○	○		
	北海道医師会事業第二課係長	浮 田 啓 文	○	○	○	○		
	札幌市医師会事業二課課長	宮 部 喜 仁	○	○	○			
	札幌市医師会事業二課課長補佐	鎌 田 雅 美	○	○	○			
青森県	青森県医師会常任理事	樋 口 毅	○	○	○	○		
	青森県医師会勤務医部会部会長	今 明 秀	○	○	○	○		
	あおもり協立病院院長	相 馬 裕	○	○	○		○	○
	八戸市立市民病院副院長	沼 沢 拓 也	○	○	○		○	○
	青森労災病院整形部長	岩 崎 弘 英	○	○	○	○		
	八戸赤十字病院整形外科副部長	菊 池 祐 樹	○	○				
岩手県	岩手県医師会会長	本 間 博	○	○	○		○	○
	岩手県医師会常任理事	宮 田 剛	○	○	○	○	○	○
	岩手県医師会常任理事	伊 藤 智 範	○	○	○	○	○	○
	岩手県医師会参与	望 月 泉	○	○	○		○	○
	岩手県医師会勤務医部会副部会長	伊 藤 達 朗	○	○	○		○	○
	岩手県医師会勤務医部会副部会長	久 保 直 彦	○	○			○	
	岩手県医師会勤務医部会常任幹事	吉 田 徹	○	○	○			
	岩手県医師会事務局長	櫛 引 忠	○	○	○	○	○	○
	岩手県医師会総務課長	常 谷 淳 子	○	○	○	○	○	○
	岩手県医師会総務課主任	佐々木 尚 子	○	○	○	○	○	○
宮城県	岩手県医師会総務課主事	尻 谷 成 教	○	○	○	○	○	○
	宮城県医師会会長	佐 藤 和 宏	○	○	○		○	○
	宮城県医師会副会長	橋 本 省	○	○	○		○	
	宮城県医師会常任理事	篠 崎 毅	○	○	○			
	仙台市医師会副会長	島 村 弘 宗	○	○	○	○		
	仙台市医師会理事	本 田 芳 宏	○	○	○			
	仙台市医師会理事	藤 原 幾 磨	○	○	○	○	○	○
	仙台市医師会理事	高 橋 絵利子	○	○	○			
	気仙沼市医師会副会長	星 達 也	○				○	○

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
秋田県	秋田県医師会会長	小 泉 ひろみ	○	○	○			○
	秋田県医師会常任理事	五十嵐 知 規	○	○	○		○	○
山形県	山形県医師会会長	間 中 英 夫	○	○	○	○		
	山形県医師会副会長	三 條 典 男	○	○	○		○	○
	山形県医師会副会長	橋 爪 英 二	○	○	○		○	○
	山形県医師会常任理事	吉 岡 信 弥	○	○	○		○	○
	山形県医師会事務局長	石 川 由 美	○	○	○		○	○
	山形県医師会事務局主事	遠 藤 嵩 士	○	○	○		○	○
福島県	福島県医師会会長	石 塚 尋 朗	○	○	○			
	福島県医師会副会長	今 野 修	○	○	○			
	福島県医師会事務局長	八 巻 秀 一	○	○	○			
	福島県医師会事務局参事	伊 藤 直 樹	○	○	○			
	福島県医師会業務課副課長	高 橋 康 則	○	○	○			
	福島県医師会業務課主事	上 田 里 美	○	○	○			
茨城県	茨城県医師会会長	松 崎 信 夫	○	○	○	○		○
	茨城県医師会常任理事	安 部 秀 三	○	○	○		○	○
	茨城県医師会常任理事	長 田 佳 世	○	○	○		○	○
	茨城県医師会理事	原 晃	○	○	○		○	○
	茨城県医師会事務局	江 幡 和 樹	○	○	○	○	○	○
	茨城県医師会事務局	橋 本 奈 苗	○	○	○	○	○	○
栃木県	栃木県医師会常任理事	滝 田 純 子	○	○	○		○	○
	栃木県医師会地域医療課課長補佐	落 合 一 真	○	○	○		○	○
	栃木県医師会地域医療課係長	鈴 木 彩 香	○	○	○		○	○
群馬県	群馬県医師会理事	鶴 谷 英 樹	○	○				
	群馬県医師会事務局	進 藤 崇 史	○	○			○	
埼玉県	埼玉県医師会副会長	水 谷 元 雄	○	○			○	
	埼玉県医師会常任理事	松 山 眞記子	○	○			○	
	埼玉県医師会理事	武 正 寿 明	○	○	○		○	○
	埼玉県医師会理事	竹 並 麗	○	○	○		○	○
	埼玉県医師会勤務医部会部会長	児 玉 隆 夫	○	○	○			○
	埼玉県医師会勤務医部会副部会長	細 田 泰 雄	○	○	○		○	○
	埼玉県医師会勤務医部会顧問	原 彰 男	○	○			○	○
	埼玉県医師会勤務医部会顧問	吉 田 武 史	○	○	○		○	○
	埼玉県医師会業務課長	菅 沼 俊 昭	○	○	○		○	○
	埼玉県医師会業務課業務 I 担当主幹	飯 野 美登里	○	○	○		○	○
千葉県	千葉県医師会副会長	今 井 俊 哉	○	○	○			
	千葉大学医学部附属病院客員准教授	亀 田 義 人	○	○	○			
	千葉県医師会事務局	白 鳥 あ い	○	○	○			
東京都	東京都医師会理事	大 坪 由里子	○	○	○		○	○
	東京都医師会理事	新 井 悟	○	○	○		○	○
	東京都医師会広報学術課長	井 上 浩 明	○	○	○		○	

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
神奈川県	神奈川県医師会副会長	恵比須 享	○	○	○		○	
	神奈川県医師会副会長	鈴木 紳一郎	○	○	○	○	○	○
	神奈川県医師会理事	久保田 毅	○	○	○	○		○
	神奈川県医師会理事	小 松 幹一郎	○	○	○	○		○
	神奈川県医師会理事	磯 崎 哲 男	○	○	○		○	
	横浜市医師会副会長	若 栗 直 子	○	○	○		○	○
	横浜市医師会常任理事	三 上 大 志	○	○	○		○	○
	横浜市医師会常任理事	池 島 秀 明	○	○	○	○	○	○
	横浜市医師会常任理事	内 藤 英 二	○	○	○		○	○
	横浜市医師会理事	三 角 隆 彦	○	○	○		○	○
	横浜市医師会勤務医事業部会特別部員	川 田 剛 裕	○	○	○		○	○
	横浜市医師会勤務医事業部会特別部員	長谷川 修	○	○	○		○	○
	横浜市医師会勤務医事業部会部員	若 村 邦 彦	○	○	○		○	○
	横浜市医師会勤務医事業部会部員	大 沢 宏 至	○	○	○		○	○
	川崎市医師会理事	川 瀬 弘 一	○	○			○	
	横須賀市医師会理事	野 尻 和 典	○	○	○	○		○
	小田原医師会理事	松 田 基	○	○				
	神奈川県医師会企画・広報課副主幹	安 藤 淳一郎	○	○	○	○	○	○
	神奈川県医師会病院診療所支援課主任	梅 原 三穂子	○	○	○	○	○	○
	横浜市医師会事務局地域医療課長	村 上 啓 太	○	○	○		○	○
	横浜市医師会事務局地域医療課主任	近 藤 団	○	○	○		○	○
	横浜市医師会事務局地域医療課職員	川 合 修 平	○	○	○		○	○
新潟県	新潟県医師会理事（病院部部长）	本 間 照	○	○	○		○	○
	新潟県医師会勤務医委員会委員	竹之内 辰 也	○	○			○	
	新潟県医師会勤務医委員会委員	高 橋 英 明	○	○	○		○	○
山梨県	山梨県医師会勤務医部会部会長	萩 野 哲 男	○	○	○		○	○
長野県	長野県医師会勤務医委員会委員長	宮 田 和 信	○	○	○		○	○
	長野県医師会勤務医委員会副委員長	武 井 洋 一	○	○	○		○	○
	長野県医師会総務課係	西 澤 美 咲	○	○	○		○	○
富山県	富山県医師会理事	林 茂	○	○	○		○	○
石川県	石川県医師会理事	古 川 健 治	○	○	○			
	石川県医師会理事	小 林 健	○	○	○		○	○
	石川県医師会理事	森 下 英理子	○	○	○			○
	金沢市医師会理事	土 山 寿 志	○	○	○		○	○
岐阜県	岐阜県医師会勤務医部会運営委員長	浅 野 雅 嘉	○	○	○		○	○
	岐阜県医師会勤務医部会副運営委員長	村 上 啓 雄	○	○	○		○	
	岐阜県医師会勤務医部会副運営委員長	堀 明 洋	○	○	○		○	○
	岐阜県医師会常務理事	山 本 昌 督	○	○	○		○	○
	岐阜県医師会事務局	田 宮 陽 一	○	○	○		○	○
静岡県	静岡県医師会理事	小 野 宏 志	○	○	○		○	
	静岡県医師会理事	竹 内 浩 視	○	○	○		○	○
愛知県	愛知県医師会会長	柵 木 充 明	○	○	○		○	○
	愛知県医師会理事	浦 田 士 郎	○	○	○		○	○
	愛知県医師会勤務医部会副部長	長谷川 真 司	○	○	○		○	○
	愛知県医師会勤務医部会副部長	成 瀬 友 彦	○	○	○		○	○

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
三重県	三重県医師会常任理事	今 野 信太郎	○	○	○			
	三重県医師会理事	齋 藤 洋 一	○	○	○		○	○
	三重県医師会勤務医委員会委員長	星 野 康 三	○	○	○		○	○
	三重県医師会事務局	木 本 祥 仁	○	○	○		○	○
滋賀県	滋賀県医師会理事	岡 本 元 純	○	○	○		○	○
	滋賀県医師会事務局主任	井 上 卓 也	○	○	○			
京都府	京都府医師会副会長	上 田 朋 宏	○	○	○		○	
	京都府医師会理事	尾 池 文 隆	○	○				
	京都府医師会勤務医部会幹事長	若 園 吉 裕	○	○	○			
	京都府医師会事務局次長	宮 川 明 則	○	○	○	○		
	京都府医師会学術生涯研修課長	山 口 早 余	○	○	○	○		
大阪府	大阪府医師会理事	清 水 智 之	○	○	○	○	○	○
	大阪府医師会勤務医部会副部会長	幸 原 晴 彦	○	○	○		○	○
	大阪府医師会勤務医部会副部会長	藤 本 康 裕	○	○	○		○	○
	大阪府医師会 U40 OSAKA 勤務医部会委員	林 義 人	○	○	○	○	○	○
	大阪府医師会 U40 OSAKA 勤務医部会委員	表 孝 徳	○	○	○			
	大阪府医師会事務局	長谷川 雄 一	○	○	○	○		
兵庫県	兵庫県医師会常任理事	藤 田 宏 史	○	○	○			
	兵庫県医師会勤務医委員会委員長	西 川 梅 雄	○	○	○		○	
	兵庫県医師会事務局課長	長 尾 富美子	○	○	○			
	兵庫県医師会事務局課長補佐	寺 川 準	○	○	○			
奈良県	奈良県医師会理事	友 岡 俊 夫	○	○	○			
	奈良県医師会理事	鉄 村 信 治	○	○	○	○	○	○
	奈良県医師会事務局長	佐 藤 好 美	○	○	○		○	○
和歌山県	和歌山県医師会理事	中 谷 剛	○	○	○		○	○
	和歌山県医師会事務局長	清 水 弘 和	○	○	○		○	○
鳥取県	鳥取県医師会理事	廣 岡 保 明	○	○	○			
	鳥取県医師会事務局次長	岩 垣 陽 子	○	○	○		○	○
	鳥取県医師会事務局主事	上 治 依里香	○	○	○			
島根県	島根県医師会常任理事	大 居 慎 治	○	○	○	○	○	○
	島根県医師会常任理事	芦 沢 隆 夫	○	○	○			○
	島根県医師会勤務医部会委員	入 江 隆	○	○	○		○	○
	島根県医師会業務課主事	卯 木 尚 大	○	○	○	○		
岡山県	岡山県医師会常任理事	合 地 明	○	○	○	○		○
	岡山県医師会常任理事	榊 原 敬	○	○	○			
広島県	広島県医師会勤務医部会部会長	板 本 敏 行	○	○	○			
	広島県医師会常任理事	石 川 暢 恒	○	○	○			
	広島県医師会常任理事	西 野 繁 樹	○	○	○		○	○
	広島県医師会常任理事	辻 恵 二	○	○	○			○
	広島市医師会理事	山 岡 直 樹	○	○	○			○
	広島市勤務医会理事	高 岡 克 寿	○	○	○			○
	広島市勤務医会理事	隅 田 昌 之	○	○	○			○
	安佐医師会副会長	小 野 千 秋	○	○				
	安芸地区医師会理事	住 居 晃太郎	○	○	○		○	○
	広島県医師会事務局	岡 山 大 介	○	○	○			

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
山口県	山口県医師会副会長	中 村 洋	○	○	○			
	山口県医師会常任理事	岡 紳 爾	○	○	○			
	山口県医師会理事	白 澤 文 吾	○	○	○			
	山口県医師会理事	國 近 尚 美	○	○	○			
	山口県医師会理事	森 健 治	○	○	○			
	山口県医師会勤務医部会長	田 口 敏 彦	○	○	○			○
	山口県医師会勤務医部会企画委員長	弘 本 光 幸	○	○	○		○	
	山口県医師会総務課	青 木 弓 恵	○	○	○			
徳島県	徳島県医師会会長	齋 藤 義 郎	○	○	○			
	徳島県医師会 常任理事／勤務医・研修医委員会委員長	八 木 淑 之	○	○	○			
	徳島県医師会 常任理事／勤務医・研修医委員会副委員長	元 木 由 美	○	○	○			
	徳島県医師会事務局長	中 村 真由美	○	○	○	○		
	徳島県医師会課長補佐	田 上 祝 榮	○	○	○	○		
	徳島県医師会主任	久 木 絵里奈	○	○	○	○		
	愛媛県医師会副会長	佐 川 庸	○	○	○	○	○	○
愛媛県	愛媛県医師会常任理事	藤 崎 智 明	○	○	○	○		
	松山市医師会副会長	宮 岡 弘 明	○	○	○		○	○
高知県	高知県医師会副会長	中 澤 宏 之	○	○	○		○	○
	高知県医師会常任理事	計 田 香 子	○	○	○			
	高知市医師会副会長	廣 瀬 大 祐	○	○	○			
	高知市医師会事務局長	大 黒 勝 久	○	○	○			
佐賀県	佐賀県医師会常任理事	佐 藤 清 治	○	○	○			
	佐賀市医師会理事	内 藤 光 三	○	○				
	佐賀県医療センター好生館理事長	樗 木 等	○	○				
	佐賀県医療センター好生館館長	田 中 聡 也	○	○	○			
	佐賀県医師会事務局次長兼総務課長	於 保 和 弥	○	○	○			
長崎県	長崎県医師会常任理事	藤 田 成 裕	○	○				
	長崎県医師会常任理事	上 戸 穂 高	○	○	○			
	長崎県医師会事務局主事	田 畑 純 平	○	○	○			
	佐世保市医師会副会長	米 満 伸 久	○	○	○			
	佐世保市医師会理事	中 村 昭 博	○	○	○			
	佐世保市医師会事務局長	井 元 保 雅	○	○	○			
	熊本県医師会理事	高 橋 毅	○	○	○			
熊本県	熊本県医師会理事	秋 月 美 和	○	○	○			
	熊本市医師会副会長	濱 田 泰 之	○	○	○			
	熊本市医師会理事	清 原 英 雄	○	○	○			
	熊本市医師会理事	杉 田 裕 樹	○	○	○			
	熊本市医師会勤務医部副世話人	高 群 博 之	○	○	○			
	熊本県下益城郡医師会理事	長 倉 祥 一	○	○	○	○		○
	熊本大学病院救急部教授	入 江 弘 基	○	○	○			
	熊本県医師会総務課課長補佐	佐 藤 文 美	○	○	○			

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
大分県	大分県医師会会長	河 野 幸 治	○	○	○			
	大分県医師会常任理事	三 島 康 典	○	○				
	大分県医師会常任理事	谷 村 秀 行	○	○	○		○	○
	大分県医師会事務局長	那 須 陽 介	○	○	○			
	大分県医師会事務局次長兼地域保健課長	藤 澤 弘 美	○	○	○			
	大分県医師会地域保健課主事	三 浦 貴 子	○	○	○			
宮崎県	宮崎県医師会副会長	金 丸 吉 昌	○	○	○	○		
	宮崎県医師会常任理事	嶋 本 富 博	○	○	○			
	宮崎県医師会理事	田 畑 直 人	○	○	○	○	○	○
	宮崎県医師会理事	山 中 聡	○	○	○			
	宮崎県医師会地域医療課主事	福 田 里 紗	○	○	○		○	○
鹿児島県	鹿児島県医師会副会長	桶 谷 薫	○	○	○			
	鹿児島県医師会常任理事	中 島 均	○	○	○	○		
	鹿児島市医師会勤務医会委員	砂 原 伸 彦	○	○	○	○		○
	鹿児島県医師会事務局	吉 永 剛	○	○	○	○		○
沖縄県	沖縄県医師会勤務医部会委員	福 治 康 秀	○	○	○			
	沖縄県医師会主任	新 垣 昭 吾	○	○	○		○	○
	沖縄県医師会業務1課長	徳 村 潤 哉	○	○	○			
日本医師会	日本医師会会長	松 本 吉 郎	○	○	○		○	○
	日本医師会常任理事	今 村 英 仁	○	○	○	○	○	○
	日本医師会常任理事	濱 口 欣 也	○	○	○			
	日本医師会常任理事	藤 原 慶 正	○	○	○	○	○	○
	日本医師会理事	三 木 恒 治	○	○	○	○	○	○
	日本医師会勤務医委員会副委員長	渡 辺 憲	○	○	○	○	○	○
	日本医師会勤務医委員会副委員長	落 合 和 彦	○	○	○		○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	猪 股 雅 史	○	○	○		○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	大久保 ゆかり	○	○	○	○	○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	木 村 百合香	○	○	○			
	日本医師会勤務医委員会委員	阪 上 学	○	○			○	
	日本医師会勤務医委員会委員	白 石 悟	○	○	○		○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	杉 本 圭 相	○	○	○	○	○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	南 里 泰 弘	○	○	○		○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	長谷部 千登美	○	○	○		○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	間 瀬 憲多朗	○	○	○	○	○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	宮 田 剛	○	○	○	○	○	○
	日本医師会勤務医委員会委員	若 林 久 男	○	○	○		○	○
	日本医師会総務課長	長 橋 隆 三	○	○	○	○	○	○
	日本医師会総務課	牧 野 智 行	○	○	○	○	○	○
	日本医師会総務課	高 橋 俊 介	○	○	○	○	○	○
	日本医師会会長室長	岸 智 哲	○	○	○		○	○
福岡県	福岡県医師会会長	蓮 澤 浩 明	○	○	○	○	○	○
	福岡県医師会副会長 日本医師会勤務医委員会委員長	一 宮 仁	○	○	○	○	○	○
	福岡県医師会副会長	平 田 泰 彦	○	○	○	○		
	福岡県医師会副会長	杉 健 三	○	○	○			
	福岡県医師会専務理事	瀬 戸 裕 司	○		○			
	福岡県医師会常任理事	辻 裕 二	○		○	○		

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
福岡県	福岡県医師会常任理事	桑 野 恭 行	○		○			
	福岡県医師会常任理事	戸 次 鎮 史	○	○	○	○	○	○
	福岡県医師会常任理事	稲 光 毅	○		○			
	福岡県医師会常任理事	原 祐 一	○		○	○		
	福岡県医師会理事	伊 藤 重 彦	○	○	○			
	福岡県医師会理事	田 中 眞 紀	○	○	○	○	○	○
	福岡県医師会理事	青 柳 明 彦	○		○	○		
	福岡県医師会理事	西 秀 博	○	○	○			
	福岡県医師会理事	百 武 宏 幸	○	○	○			
	福岡県医師会理事	星 子 久	○	○	○			
	福岡県医師会理事	横 倉 義 典	○	○	○	○		○
	福岡県医師会理事	櫻 井 俊 弘	○	○	○	○		
	福岡県医師会理事	占 部 嘉 男	○	○	○			
	福岡県医師会理事	宗 宏 伸	○	○	○			
	福岡県医師会理事	原 速	○	○	○	○		
	福岡県医師会理事	田 中 耕太郎	○					
	福岡県医師会理事	永 田 直 幹	○	○	○			
	福岡県医師会理事	蜂須賀 正 紘	○		○			
	福岡県医師会常任監事	村 上 吉 博	○					
	福岡県医師会監事	秋 田 章 二			○			
	福岡県医師会参与	津 田 泰 夫	○	○	○			
	福岡県医師会勤務医部会委員会副委員長	平 川 勝 之	○	○	○	○		
	福岡県医師会勤務医部会委員会副委員長	松 隈 哲 人	○	○	○	○		
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	山 下 博 徳	○	○	○	○		
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	渡 辺 恭 子	○	○	○	○		
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	伊 東 裕 幸	○		○			
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	倉 本 晃 一	○	○	○	○		
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	大 原 敦 子	○	○				
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	北 園 孝 成	○					
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	野 村 政 壽	○		○			
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	定 永 倫 明	○	○	○	○		
	福岡県医師会勤務医部会委員会委員	安 藤 眞 一	○	○	○			
	北九州市医師会理事	末 永 俊 郎	○		○			
	北九州市医師会理事	江 崎 嘉 春	○		○			
	北九州市医師会理事	石 井 義 輝	○	○	○			
	小倉医師会会長	松 村 洋	○	○	○			
	小倉医師会副会長	浦 田 康	○		○			
	小倉医師会副会長	鶴 留 洋 輔	○	○	○			
	小倉医師会専務理事	木 原 康 之	○	○	○			
	小倉医師会理事	大久保 信 之	○	○	○			
	小倉医師会理事	大 野 拓 郎	○	○	○			
	小倉医師会理事	徳 永 洋 一	○	○	○			
	小倉医師会理事	光 本 正 宗	○	○	○			
	小倉医師会監事	宮 脇 宏	○	○	○			
	小倉医師会健診センター	柳 樂 清 文	○	○	○			
	小倉医師会勤務医部会役員	日 暮 愛一郎	○	○	○			
	小倉医療センター統括診療部長	高 月 浩	○		○			

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
福岡県	小倉医療センター副院長	吉 里 俊 幸	○		○			
	小倉医療センター小児科医長	牧 村 美 佳	○	○	○			
	小倉医療センター小児科部長	中 嶋 敏 紀	○	○	○			
	小倉医療センター内科部長	的 場 ゆ か	○		○			
	小倉医療センター臨床研修医2年目	戎 寛 寿	○	○	○			
	小倉医療センター臨床研修医2年目	久 田 ちひろ	○	○	○			
	小倉医療センター臨床研修医2年目	大喜多 洋	○	○	○			
	小倉医療センター臨床研修医1年目	新 堂 慎太郎	○	○	○			
	戸畑共立病院副院長	三 宅 育 代	○	○	○			
	芦屋中央病院副院長	瓜 生 康 平	○	○	○			
	芦屋中央病院医務局長	日 浦 政 明	○	○	○			
	新中間病院院長	矢毛石 陽 一	○		○			
	京都医師会理事 新行橋病院院長	正 久 康 彦	○	○	○			
	新行橋病院事務次長	中 村 恵 一	○	○	○			
	福岡市医師会会長	菊 池 仁 志	○	○				
	福岡市医師会副会長	案 浦 美 雪	○		○			
	福岡市医師会副会長	松 浦 弘	○	○	○			
	福岡市医師会副会長	大 木 實	○	○	○			
	福岡市医師会専務理事	庄 司 哲 也	○	○	○			
	福岡市医師会常任理事	植 山 奈 実	○					
	福岡市医師会常任理事	江 頭 省 吾	○	○				
	福岡市医師会常任理事	中 山 英 樹	○		○			
	福岡市医師会常任理事	江 口 徹	○	○	○	○		
	福岡市医師会常任理事	吉 村 寛 志	○	○	○			
	福岡市医師会常任理事	早 渕 雅 樹	○					
	福岡市医師会常任理事	井 上 久 子	○					
	福岡市医師会常任理事	古 山 正 大	○		○			
	福岡市医師会常任理事	高 森 義 博	○		○			
	福岡市医師会理事	住 吉 康 平	○					
	福岡市医師会理事	佐 藤 茂	○		○			
	福岡市医師会理事	野 口 秀 哉	○		○			
	福岡市医師会理事	小 舘 満太郎	○		○			
	福岡市医師会監事	佐 野 正 敏	○		○			
	福岡市勤務医会理事	岡 田 靖	○	○	○			
	福岡市勤務医会監事	山 本 卓 明	○	○	○			
	福岡大学病院	萩 尾 友 宣	○					
	国立病院機構九州医療センター副院長	中 島 寅 彦	○		○			
	国立病院機構福岡病院副院長	曳 野 俊 治	○	○				
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター院長	森 田 勝	○	○	○			
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター地域連携室室長	杉 町 圭 史	○	○	○			
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター副院長	益 田 宗 幸	○	○	○			
	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター統括診療部長	杉 本 理 恵	○	○	○			

都道府県	医師会における役職名 又は勤務先医療機関名等	氏 名	協議会	昼食	懇親会	交流会	宿泊日	
							10/25(金)	10/26(土)
福岡県	国立病院機構福岡病院院長	吉 田 誠	○	○				
	福岡市保健医療局理事	田 中 雅 人	○	○	○			
	社医)池友会福岡和白病院院長	富 永 隆 治	○	○	○			
	福岡市立こども病院腎疾患科科长、 腎・泌尿器センター長	郭 義 胤	○	○	○			
	福岡赤十字病院副院長	大 坪 俊 夫	○	○	○			
	福岡赤十字病院副院長	西 田 眞	○	○				
	福岡赤十字病院副院長	本 山 健太郎	○	○	○			
	福岡赤十字病院呼吸器外科部長	小 島 雅 之	○	○	○			
	浜の町病院副院長	吉 澤 誠 司	○					
	社医)原土井病院緩和ケア内科診療部長	山 下 和 海	○		○			
	済生会福岡総合病院副院長	落 合 利 彰	○	○				
	今津赤十字病院院長	藤 井 弘 二	○	○				
	千早病院院長	道 免 和 文	○					
	福岡市立病院機構福岡市民病院副院長	東 秀 史	○	○				
	福岡市民病院診療科長	吉 野 慎一郎	○					
	済生会福岡総合病院臨床研修医2年目	吉 田 憲太郎	○	○	○			
	済生会福岡総合病院臨床研修医2年目	久保田 早 紀	○	○	○			
	済生会福岡総合病院臨床研修医1年目	田 崎 周	○	○	○			
	済生会福岡総合病院臨床研修医1年目	真 島 結 子	○	○	○			
	筑紫医師会理事	末 安 禎 子	○	○	○	○		
	筑紫医師会理事	粕 井 英 利	○	○	○			
	福岡県済生会二日市病院副院長	門 上 俊 明	○	○	○			
	福岡県済生会二日市病院研修医	山 本 航 暉	○	○	○			
	福岡県済生会二日市病院研修医	福 嶋 宏 樹	○	○	○			
	自衛隊福岡病院院長	森 知 久	○	○	○			
	自衛隊福岡病院副院長	森 西 洋 一	○	○	○			
	糸島医師会会長	富 満 久 教	○		○			
	糸島医師会副会長	田 中 仁			○			
	粕屋医師会理事	中 根 博	○	○	○			
	福岡東医療センター院長							
	九州大学医師会	勝 田 仁	○	○	○			
	九州大学大学院医学研究院保健学部門教授							
	直方鞍手医師会会長	菅 原 啓 介	○					
	直方鞍手医師会理事	田 中 伸之介	○	○	○			
	田川市立病院病院事業管理者	鴻 江 俊 治	○	○	○			
	田川市立病院研修医	高 野 弘 之	○	○	○			
	飯塚医師会副会長	肘 井 孝 之	○					
	飯塚病院特任副院長	山 本 英 彦	○	○	○			
	久留米医師会理事	荒 木 昭 輝	○	○				
	久留米医師会理事	永 田 剛	○	○				
	大牟田医師会副会長	川 崎 雅 之	○	○	○			
	姫野病院会長	姫 野 信 吉	○	○				
	朝倉医師会病院	田 仲 洋 平	○					
	柳川山門医師会理事	藤 吉 学	○					
	田主丸中央病院常務理事	鬼 塚 明 子	○	○	○			

日本医師会勤務医委員会委員

委員長 一宮 仁

副委員長 渡辺 憲

〃 落合 和彦

委員 猪股 雅史

〃 大久保ゆかり

〃 木村百合香

〃 阪上 学

〃 白石 悟

〃 杉本 圭相

〃 南里 泰弘

〃 長谷部千登美

〃 間瀬憲多朗

〃 宮田 剛

〃 若林 久男

福岡県医師会役員

会 長	蓮澤 浩明
副 会 長	一宮 仁
〃	平田 泰彦
〃	杉 健三
専務理事	瀬戸 裕司
常任理事	辻 裕二
〃	桑野 恭行
〃	戸次 鎮史
〃	稲光 毅
〃	原 祐一
理 事	伊藤 重彦
〃	田中 眞紀
〃	青柳 明彦
〃	西 秀博
〃	百武 宏幸
〃	星子 久
〃	横倉 義典
〃	櫻井 俊弘
〃	占部 嘉男
〃	宗 宏伸
〃	原 速
〃	田中耕太郎
〃	永田 直幹
〃	蜂須賀正紘
常任監事	村上 吉博
監 事	秋田 章二
〃	長野 英嗣

福岡県医師会勤務医部会委員会委員

委員長 中房 祐司

副委員長 平川 勝之

〃 松隈 哲人

委員 山下 博徳

〃 渡辺 恭子

〃 伊東 裕幸

〃 江口 冬樹

〃 倉本 晃一

〃 大原 敦子

〃 北園 孝成

〃 野村 政壽

〃 小玉 正太

〃 田中 文啓

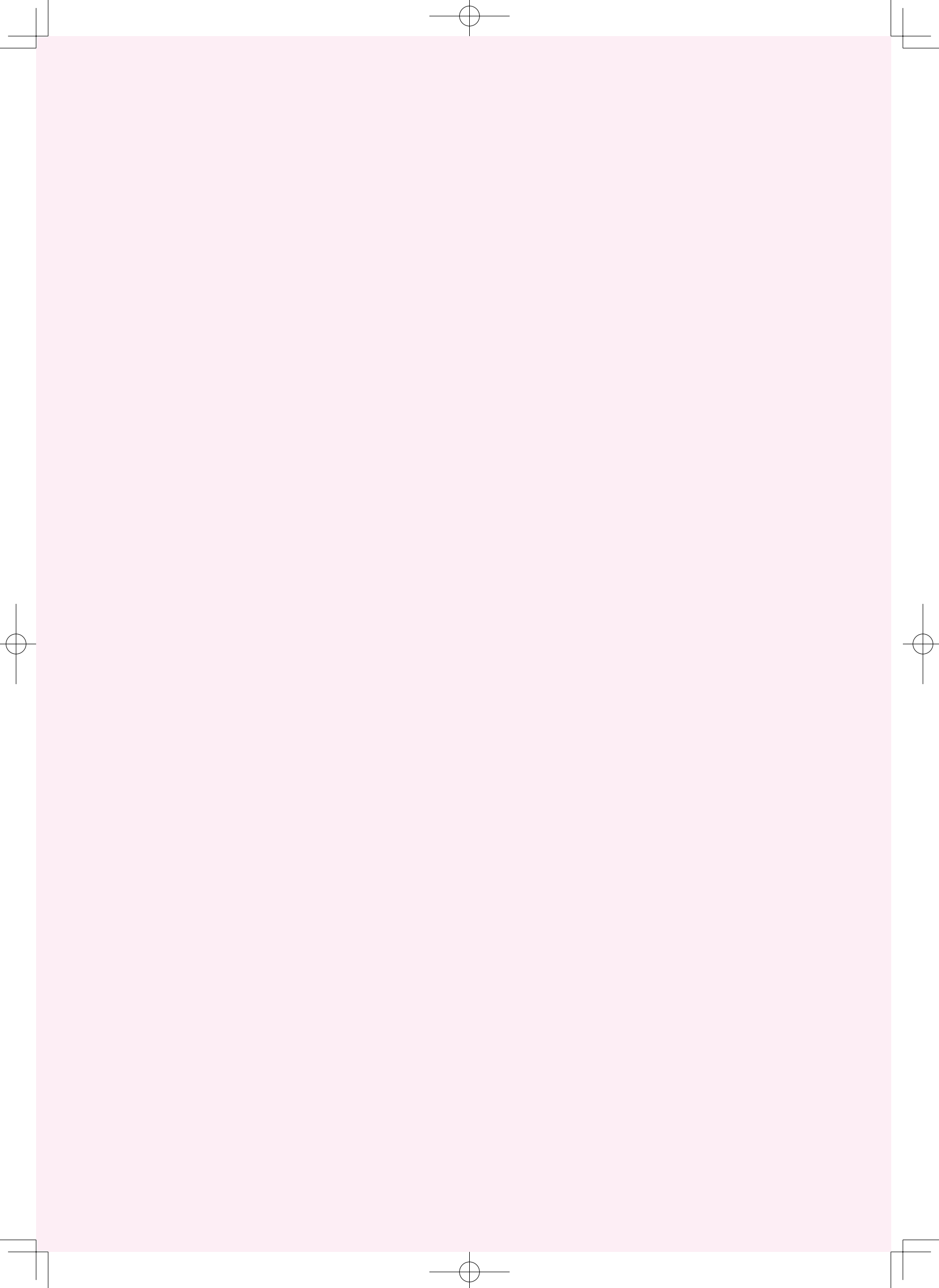
〃 定永 倫明

〃 安藤 眞一

(順不同)

付 録





全国医師会勤務医部会連絡協議会開催地及びテーマ等一覧

(第1回～第43回)

回	期日(曜) 場所・主務	内 容
1	昭和56年2月7日(土) 福岡西鉄グランドホテル 福岡市医師会	シンポジウム「勤務医の現状と展望」 特別講演「大阪における地域医療の展開」 大阪府医師会長 山 口 正 民
2	昭和56年12月5日(土) 箕面観光ホテル 大阪府医師会	分科会①「医師会勤務医部会の組織」 ②「勤務医と地域医療活動」 ③「勤務医の福利厚生」 特別講演「マイクロコンピュータの現状と将来」 シャープ(株)パソコン事業部長 相 川 正 彦
3	昭和57年10月2日(土) 岩手県医師会館 岩手県医師会	シンポジウム ①「勤務医部会活動をめぐって」 1) その現状と問題点 2) その設立の問題点 ②「勤務医と日本医師会」－日医に対する勤務医の要望－ 特別講演「日本医師会と勤務医」 日本医師会長 花 岡 堅 而
4	昭和58年11月5日(土) 愛媛県医学研究所 松山市医師会	パネルディスカッション ①A、B会員の接点 1) 日医勤務医委員会の活動状況と今後の歩むべき道 2) 勤務医は医師会に何を期待するか 3) 地域医師会の立場から勤務医に何を期待するか 4) 医事紛争防止対策 ②勤務医の組織化 1) 勤務医部会活動をしている医師会の立場より 2) 勤務医部会設立準備中の医師会の立場より 3) 若手医師「勤務医」の組織化の問題点 4) 勤務医の入会のメリットと未入会勤務医へのPRについて 5) 医師会入退制度上の問題点〔会費等〕 特別講演 ①「日本の医療における勤務医の役割－将来展望－」 日本医師会長 花 岡 堅 而 ②「勤務医の医事紛争」 日本医師会顧問弁護士 餐 庭 忠 男
5	昭和59年11月10日(土) 石和グランドホテル 山梨県医師会	テーマ「大学と医師会」 特別講演「勤務医の組織化と日医の強化」 日本医師会長 羽 田 春 免 アンケート ①医科大学へのアンケート ②都道府県医師会へのアンケート パネルディスカッション ①大学医師の医師会加入時の問題点 ②学術・生涯教育における大学医師との接点 ③福祉共済における大学医師と医師会員の相違点 ④地域医療における大学医師と医師会員の役割
6	昭和60年11月30日(土) 広島医師会館 広島県医師会	テーマ「勤務医の福祉」 アンケート「医師死因統計」 特別講演 ①「最近の医療情勢について」 日本医師会長 羽 田 春 免 ②「21世紀の医療」 厚生省社保審査会委員 佐分利 輝 彦 パネルディスカッション「勤務医の福祉について」

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
7	昭和61年11月29日（土） 静岡ターミナルホテル 静岡県医師会	テーマ「勤務医と地域医療活動」 アンケート「勤務医の定年とその後の状態について」 特別講演「最近の医療情勢について」 日本医師会長 羽 田 春 免 パネルディスカッション ①「地域医療における勤務医の役割」 1) 救急医療 2) 病診連携 3) 教育及び研究活動 4) 医療社会事業 ②「日医と勤務医」 1) 日医勤務委員について 2) 勤務医部会連絡協議会の活動 3) 日医が勤務医部会連絡協議会に望むもの
8	昭和62年11月28日（土） 京都センチュリーホテル 京都府医師会	テーマ「認定医、専門医制度の問題点」 アンケート「専門医、認定医制度について」 パネルディスカッション「日医と勤務医」 ①日医医賠責制度発足とその後 ②生涯教育をどうするか ③医療機関連携の現状と展望 ④勤務医部会結成の現状 ⑤今後の検討課題について シンポジウム「認定医、専門医制度の問題点」 ①〈特別講演〉日医と専門医、認定医制度の問題点 ②諸外国の専門医、認定医制度について ③医師会から見た専門医、認定医制度について ④マスコミから見た専門医、認定医制度の問題点 ⑤大学勤務医から見た、専門医、認定医制度の問題点
9	昭和63年11月5日（土） ロイヤルホール・ヨコハマ 横浜市医師会	全国統計報告「医師急増と勤務医師の現況及び将来展望」 パネルディスカッション「医師急増と勤務医師」 ①我が県における医師急増の問題点 ②医師急増下における各医局の現況 ③最近の医師雇用関係の変化と定年後の動向 ④医師急増の理念と将来展望 ⑤医師急増問題と対策 シンポジウム「勤務医師の組織化」 ①〈特別講演〉「日本医師会と日本医学会について」 日本医師会副会長 三 島 済 一 ②各地域における組織化の現状と問題点 ③組織のあり方－部会形式と将来－ ④日本医師会としての考え方
10	平成元年10月28日（土） ホテルニュー長崎 長崎県医師会	メインテーマ「勤務医の現状と将来」 パネルディスカッション①「勤務医の現実・期待と不安」 アンケート報告 「長崎県における医師急増対策に関するアンケート調査」 特別講演「医療制度と勤務医」 京都大学経済学部教授 西 村 周 三 パネルディスカッション②「勤務医の将来・展望と提言」 特別講演「第10回全国医師会勤務医部会連絡協議会を終えて」 前福岡県医師会勤務医部会長 中 川 正 明

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
11	平成2年11月17日（土） ホテルシェレナ 兵庫県医師会	メインテーマ「勤務医の将来－勤務医に希望を－」 パネルディスカッション「勤務医の将来像－明と暗－」 アンケート報告「医師急増対策に関するアンケート調査」 特別講演「世界の勤務医の現状」 筑波大学医学部専門学群社会医学系医学社会学 紀伊國 献 三
12	平成3年10月12日（土） 青森グランドホテル 主催：日本医師会 担当：青森県医師会	テーマ「医師増加と地域医療」 特別講演「医療と教育」 大阪大学名誉教授医学概論 中 川 米 造 提言：勤務医部会設立後の歩みと展望－反省を含めて－ アンケート調査報告 「青森県における勤務医増加に対する意識調査から」 パネルディスカッション 「医師増加に関して－地域医療に望まれる勤務医－」 ①地域医療との連携 ②診療と院外活動 ③勤務医としての心構え ④総論的立場から ⑤医育機関の立場から ⑥急増する勤務医と医師会
13	平成4年10月17日（土） 渭水祥雲閣 主催：日本医師会 担当：徳島県医師会	テーマ「医療の現況と勤務医」 特別講演「給与生活者と医師の特性」 NHK解説委員 行 天 良 雄 ワークショップ「勤務医部会活動の現況と将来」 アンケート調査報告「医師数の増加に関するアンケート調査から」 シンポジウム 「医療の現況と勤務医」－病診連携・救急・医療保険－ ①病診連携 ②救急 ③医療保険 ④愛知県における当面の諸問題への取り組み
14	平成5年10月16日（土） ホテルキャッスルプラザ 主催：日本医師会 担当：愛知県医師会	テーマ「変わりゆく医療の中で－勤務医の役割－」 フォーラム「在宅医療と勤務医」 調査報告「保険医療の問題点」 特別講演「歴史的絵画にみる医療」 愛知県心身障害者コロニーこばと学園園長 篠 田 達 明 シンポジウム「生涯教育と勤務医」 ①医師教育の原点 ②医師会生涯教育制度と大学病院勤務医の参加 ③勤務医の生涯教育と認定医制度 ④地域中核病院における医師の生涯教育
15	平成6年10月15日（土） 京王プラザホテル札幌 主催：日本医師会 担当：北海道医師会	メインテーマ「激動する医療の中で－勤務医の意識改革－」 調査報告「勤務医の意識改革に関するアンケート調査」 フォーラム「変動する医療環境下における現場からの声」 特別講演「医療・技術革新・倫理」 日本医師会副会長 坂 上 正 道 シンポジウム「新たな医療の枠組みの中で勤務医の果たす役割」 －日本の医療を良くするには勤務医は何をすべきか－

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
16	平成7年10月14日（土） 佐賀県医師会メディカルセンター 主催：日本医師会 担当：佐賀県医師会	メインテーマ「21世紀の医療を考える」 特別講演①「21世紀の医療をとりまく環境」 日本医師会会長 村 瀬 敏 郎 調査報告「佐賀県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「21世紀の医療経済－新たな地平のための選択肢－」 慶応義塾大学大学院教授 田 中 滋 シンポジウム「勤務医の展望」
17	平成8年10月26日（土） 金沢市民芸術ホール 主催：日本医師会 担当：石川県医師会	メインテーマ「今、フロンティアとして勤務医は」 特別講演①「患者の人権と医療」 日本医師会副会長 森 岡 恭 彦 調査報告「石川県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「金沢の伝統文化」 石川県美術館館長 嶋 崎 丞 シンポジウム「切り拓く勤務医の道」
18	平成9年10月25日（土） エルガーラホール 主催：日本医師会 担当：福岡県医師会	メインテーマ「医療の機能分化と地域における勤務医の役割」 特別講演①「医師の養成と生涯教育」 日本医師会副会長 森 岡 恭 彦 調査報告「福岡県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「日本型保健・医療・福祉複合体 －医療の機能分化との連携にも触れながら－」 日本福祉大学社会福祉学部教授 二 木 立 シンポジウム「病診連携」
19	平成10年10月17日（土） 長良川国際会議場 主催：日本医師会 担当：岐阜県医師会	メインテーマ「21世紀の医療－勤務医のあるべき姿－」 特別講演①「世界最長寿国の課題」 日本医師会副会長 小 泉 明 調査報告「岐阜県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「岐阜の蘭医学者 その業績と思想」 日本医師会常任理事 杉 立 義 一 シンポジウム「21世紀の地域医療への提言」
20	平成11年11月6日（土） 水戸プラザホテル 主催：日本医師会 担当：茨城県医師会	メインテーマ「打ち寄せる医療改革－勤務医の果たすべき役割－」 特別講演①「打ち寄せる医療改革－勤務医の現在と将来－」 日本大学医学部医療管理学教室教授 大 道 久 調査報告「茨城県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「死と再生の神話に学ぶ －常陸風土記と古事記からのメッセージ－」 佐賀医院 佐 賀 純 一 シンポジウム「医療改革と勤務医」
21	平成12年10月28日（土） 鳥取県立県民文化会館 主催：日本医師会 担当：鳥取県医師会	メインテーマ「21世紀の豊かな地域社会へ向けての勤務医の役割」 特別講演①「21世紀医療のグランドデザイン」 日本医師会会長 坪 井 栄 孝 調査報告「鳥取県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「地球の砂漠化とその対処」 鳥取大学乾燥地研究センター センター長・教授〔農学博士〕 稲 永 忍 シンポジウム「新しい地域社会と勤務医」

回	期日（曜） 場所・主催	内 容
22	平成13年10月27日（土） 宮崎観光ホテル 主催：日本医師会 担当：宮崎県医師会	メインテーマ「2001年、勤務医の未来を考える」 特別講演①「21世紀の医療ビッグバン」 日本医師会長 坪 井 栄 孝 調査報告「宮崎県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「IT革命と医療」 医療情報システム開発センター理事長 開 原 成 允 シンポジウム「勤務医に夢はあるのか」
23	平成14年10月26日（土） 山口県総合保健会館 主催：日本医師会 担当：山口県医師会	メインテーマ「ついに来た医療改革」 特別講演「医療の考え方を根底から変える」 日本医師会長 坪 井 栄 孝 調査報告「山口県勤務医アンケート調査報告」 ランチョンセミナー 第1分科会 感染症対策について －院内感染に対する医師会活動について－ 第2分科会 日本医師会が提唱する卒後臨床研修 「地域施設群研修方式〔仮称〕」 シンポジウム「医療改革後の勤務医の対応」 講演「勤務医が意欲をもって働くためには」 日本医師会常任理事 西 島 英 利
24	平成15年10月18日（土） 奈良県新公会堂 主催：日本医師会 担当：奈良県医師会	メインテーマ「今、求められる医療」－質・研修・評価－ 特別講演①「だから財源論に踏み込まざるを得ない」 日本医師会長 坪 井 栄 孝 調査報告「奈良県勤務医アンケート調査報告」 ランチョンセミナー Ⅰ「大和の古墳文化－私たちの生活とのかかわり－」 関西大学名誉教授 網 干 善 教 Ⅱ「野巫医者源の源流をめぐって－旅する「寅さん」の実像－」 桃山学院大学名誉教授 沖 浦 和 光 教育講演「パックス・メディチナを超えて －医療の質保証における医師の役割とシステムの役割－」 東北大学医学部国際保健学分野教授 上 原 鳴 夫 特別講演②「私の医学教育原論」 奈良県立医科大学学長 吉 田 修 シンポジウム「卒後臨床研修に求められるもの」
25	平成16年11月6日（土） ホテル日航熊本 主催：日本医師会 担当：熊本県医師会	メインテーマ「激動の時、新たな勤務医像を求めて」 ～新臨床研修制度とともに～ 特別講演①「今、医療に求められるもの」 日本医師会長 植 松 治 雄 調査報告「熊本県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「北里柴三郎と周辺の人びと」 熊本大学名誉教授 野 村 茂 特別講演③「宇宙と素粒子」 東京大学名誉教授 小 柴 昌 俊 シンポジウム「臨床教育・研修制度改革と勤務医の役割」
26	平成17年10月22日（土） かがわ国際会議場 主催：日本医師会 担当：香川県医師会	メインテーマ「Ambitious！勤務医」 特別講演①「勤務医と医師会」 日本医師会長 植 松 治 雄 調査報告「香川県勤務医アンケート調査報告」 特別講演②「香川発“希少糖の医学”への応用産学官連携」 香川大学医学部教授 徳 田 雅 明 シンポジウム「地域医療の未来と勤務医」

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
27	平成18年11月4日（土） パレスホテル大宮 主催：日本医師会 担当：埼玉県医師会	メインテーマ「勤務医のアンガージュマンを求める」 ※アンガージュマンとはフランスの作家サルトルのことで積極的な社会参加という意味 特別講演「国民医療と医療制度改革」 －日本医師会の新しい取り組みから－ 日本医師会長 唐 澤 祥 人 調査報告「埼玉県勤務医アンケート調査報告」 シンポジウムⅠ「勤務医の労働条件」 シンポジウムⅡ「勤務医と医政活動」 基調講演「勤務医と医政活動」 －「立ち去り」か「参加」か－ 慶應義塾大学法科大学院医学部助教授・弁護士 古 川 俊 治
28	平成19年10月13日（土） 沖縄ハーバービューホテル 主催：日本医師会 担当：沖縄県医師会	メインテーマ「高めよう勤務医の情熱、広げよう勤務医の未来」 特別講演1「社会保障制度の視点と医療制度の展望」 ～少子高齢社会における地域医療の将来像～ 日本医師会長 唐 澤 祥 人 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 池 田 俊 彦 報告「沖縄県医師会勤務医アンケート調査報告」 特別講演2「未来にすくむ日本人」 ～日本は財政危機ではない、日本国民のために 我々のカネを使おう～ 日本金融財政研究所長 菊 池 英 博 特別講演3「沖縄の民間信仰とターミナル医療」 ノーブルメディカルセンター医療顧問 高 石 利 博 シンポジウム「病院の機能分化について」 ～勤務医の現状をふまえて～ 沖縄宣言採択
29	平成20年11月22日（土） ホテルミラコスタ 主催：日本医師会 担当：千葉県医師会	メインテーマ「考えよう新しい日本の医療と勤務医の未来」 －今こそ求められる医師の団結－ 特別講演1 「医師法第21条の改正と医療安全調査委員会設置法（仮称）」 日本医師会常任理事 木 下 勝 之 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 池 田 俊 彦 報告「千葉県医師会勤務医アンケート調査報告」 「各都道府県医師会および関東ブロック地区医師会会費 徴収方法アンケート報告」 特別講演2 「日本の医療のあるべき姿について」 慶應義塾大学商学部教授 権 丈 善 一 シンポジウム1「勤務医が日本の医療に果たす役割」 シンポジウム2「勤務医の将来展望」 千葉宣言採択

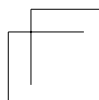
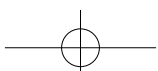
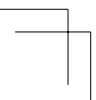
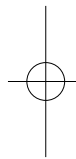
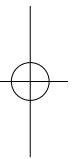
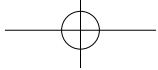
回	期日（曜） 場所・主務	内 容
30	平成21年11月28日（土） ホテル一畑 主催：日本医師会 担当：島根県医師会	メインテーマ「今こそ目指そう 医療崩壊から医療再生へ」 特別講演 1 「日本の医療を守るために－今こそ医師の大同団結を－」 日本医師会長 唐 澤 祥 人 特別講演 2 「社会が医療に求めるもの」 名城大学教授・コンプライアンス研究センター長 郷 原 信 郎 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 池 田 俊 彦 報告「島根県医師会勤務医アンケート調査報告」 特別講演 3 「生命輝かそう日本の勤務医」－低医療費政策を乗り越えて－ (安全で快適な医療を目指す－地方病院の試み) 全国自治体病院協議会会長 邊 見 公 雄 シンポジウム「勤務医をめぐる諸問題」 島根宣言採択
31	平成22年10月9日（土） ホテル東日本宇都宮 主催：日本医師会 担当：栃木県医師会	メインテーマ「地域医療再生～地域の力、医師の団結～」 特別講演 1 「医療の明日のために、今、できること」 －日本医師会の変革と地域医療の再生－ 日本医師会長 原 中 勝 征 特別講演 2 「すぐに役立つ勤務医のための医療と経済の基礎知識」 －そして必要なのは産業論的戦略行動－ 愛媛大学大学院医学系研究科医学専攻 医療環境情報解析講座教授 石 原 謙 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 報告「女性医師問題に関するアンケート調査報告（栃木県）」 ランチョンセミナー「新型インフルエンザ・総括」 自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門教授 尾 身 茂 シンポジウム 1 「医療再生の新しい取り組み」 シンポジウム 2 「今、勤務医に求められる“医療連携”とは」 栃木宣言採択
32	平成23年10月29日（土） ANAクラウンプラザホテル富山 主催：日本医師会 担当：富山県医師会	メインテーマ 「勤務医の働き方と生きがい（よりよい就労環境を求めて）」 特別講演 1 「日本医師会の医療政策について」 日本医師会副会長 横 倉 義 武 特別講演 2 「勤務医の処遇改善」 独立行政法人国立がん研究センター理事長・総長・中央病院長 嘉 山 孝 正 基調講演 「若い外科医の過重労働と改善のための方策」 九州大学大学院医学研究院循環器外科教授 富 永 隆 治 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 報告「東日本大震災－現地からの報告・被災地への医療支援－」 日本医師会勤務医委員会副委員長 望 月 泉 パネルディスカッション「よりよい就労環境を求めて」 富山宣言採択

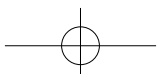
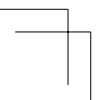
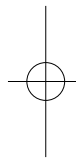
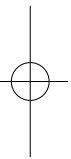
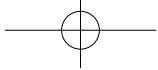
回	期日（曜） 場所・主務	内 容
33	平成24年10月6日（土） 松山全日空ホテル 主催：日本医師会 担当：愛媛県医師会	メインテーマ「新しい医療の姿－勤務医の明日－」 特別講演1「地域に寄り添う医療政策の実現に向けて」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演2「勤務医の処遇改善における課題と解決策案」 独立行政法人国立がん研究センター名誉総長 山形大学学長特別補佐/山形大学医学部脳神経外科教授 嘉 山 孝 正 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 シンポジウム1「女性医師支援とその問題点」 シンポジウム2「医療コンフリクト・マネジメントの活用」 シンポジウム3「救急医療体制維持の工夫」 愛媛宣言採択
34	平成25年11月9日（土） ホテルグランヴィア岡山 主催：日本医師会 担当：岡山県医師会	メインテーマ 「勤務医の実態とその環境改善－全医師の協働にむけて」 特別講演1「日本医師会の直面する課題」 日本医師会副会長 今 村 聡 特別講演2「日本の医療をめぐる課題：チーム医療を中心に」 講師 自治医科大学学長 永 井 良 三 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 パネルディスカッション 「様々な勤務医の実態とその環境改善を目指して」 フォーラム「岡山からの発信－地域医療人の育成」 岡山宣言採択
35	平成26年10月25日（土） 横浜ベイシェラトンホテル& タワーズ 主催：日本医師会 担当：神奈川県医師会	メインテーマ「地域医療再生としての勤務医 ～地域医療における総合診療医の役割～」 特別講演1「日本医師会が考える総合診療専門医の役割について」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演2「新制度における専門医について」 講師 日本医学会長 高 久 史 磨 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 シンポジウム 第1部「総合診療医の現状について」 第2部「総合診療専門医に対して各医会、協会から望むこと」 合同討論「総合診療医の現状について」 かながわ宣言採択

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
36	平成27年10月24日（土） 秋田キャッスルホテル 主催：日本医師会 担当：秋田県医師会	メインテーマ「日本の国情から見た理想的な勤務医とその将来像 －地域医療充実へのロードマップ－」 特別講演1「私の医師としての歩み」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演2「勤務医とチーム医療・地域医療の充実」 講師 昭和大学病院長 有 賀 徹 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 ランチョンセミナー「秋田県における医療組合運動の歴史」 秋田県厚生連由利組合総合病院長 菊 地 顕 次 報告「秋田県医師会における勤務医部会設立の経緯」 秋田県医師会副会長 坂 本 哲 也 シンポジウムⅠ「ロードマップⅠ 医師会組織強化と勤務医」 シンポジウムⅡ「ロードマップⅡ よりよいチーム医療」 シンポジウムⅢ「ロードマップⅢ これからの理想的な勤務医の あり方と卒前・卒後教育の重要性」 あきた宣言採択
37	平成28年11月26日（土） リーガロイヤルホテル大阪 主催：日本医師会 担当：大阪府医師会	メインテーマ「2025年問題と勤務医の役割」 特別講演Ⅰ「地域包括ケアと病院の関連（あり方）について」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演Ⅱ「地域医療構想について」 講師 厚生労働省保険局医療課長（前医政局地域医療計画課長） 迫 井 正 深 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 報告「大阪府医師会 勤務医部会のこれまでの40年を紐解く」 大阪府医師会勤務医部会副部会長 中 島 康 夫 シンポジウムⅠ「医療事故調査制度の動向」 シンポジウムⅡ「女性医師の働きやすい環境づくり」 おおさか宣言採択
38	平成29年10月21日（土） 札幌グランドホテル 主催：日本医師会 担当：北海道医師会	メインテーマ「地域社会をつなぐ明日の医療を考えると －次世代を担う勤務医の未来創成のために－」 特別講演Ⅰ「世界に羽ばたく日本の医療」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演Ⅱ「人口減少時代の医療提供」 講師 内閣府大臣官房審議官 大 島 一 博 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 ランチョンセミナー「蝦夷地の医事と医人」 日本医史学会功労会員・北海道医史学研究会代表幹事 島 田 保 久 シンポジウムⅠ「地域の現状と対応」 シンポジウムⅡ「地域社会をつなぐ新たな挑戦」 シンポジウムⅢ「次世代を担う若手医師の意識」 ほっかいどう宣言採択

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
39	平成30年11月3日（土・祝） ホテルニュー長崎 主催：日本医師会 担当：長崎県医師会	メインテーマ「明日の勤務医の働き方を考える ～西洋医学発祥の地長崎からの提言～」 特別講演1「日本医師会の医療政策」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演2「長崎の医学史について」 講師 長崎大学病院長 増 崎 英 明 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 ランチョンセミナー 「医師のための働き方見直し ～ワークライフバランスとダイバーシティの観点から～」 長崎大学メディカル・ワークライフバランスセンター センター長・教授 伊 東 昌 子 シンポジウム1 「医師は労働者か？～応召義務と時間外労働の狭間で～」 シンポジウム2「医療現場からの叫び」 ながさき宣言採択
40	令和元年10月26日（土） ホテルメトロポリタン山形 主催：日本医師会 担当：山形県医師会	メインテーマ「待ったなしの働き方改革～勤務医の立場から～」 特別講演I「日本医師会の医療政策」 日本医師会長 横 倉 義 武 特別講演II「複眼的にものを見る」 講師 山形大学医学部参与 嘉 山 孝 正 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 泉 良 平 ランチョンセミナー 「慶応鶴岡発バイオテクノロジーが創る健康長寿社会」 慶應義塾大学先端生命科学研究所所長 富 田 勝 シンポジウムI「勤務医の働き方改革」 シンポジウムII「生涯現役～勤務医定年後の明るい未来～」 やまがた宣言採択
41	令和3年10月2日（土） 京都府医師会館（WEB会議） 主催：日本医師会 担当：京都府医師会	メインテーマ「勤務医とともに歩む医師会の覚悟 ～医師会が守るべきもの、変えるべきもの～」 シンポジウムI 「専門医制度の行方～理想と現実、目的と結果の齟齬～」 シンポジウムII 「研修医、若手医師に対する医師会の本気度を問う」 短編映画上映 「臨床研修屋根瓦塾KYOTO」 きょうと宣言採択 オンデマンド配信 特別講演I「日本医師会の新型コロナウイルス感染症対策について」 日本医師会長 中 川 俊 男 特別講演II「日本料理とはなにか」 講師 株式会社菊の井代表取締役 村 田 吉 弘 特別講演III「専門医制度について～その目的と課題～」 講師 元厚生労働省 医政局長 武 田 俊 彦 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 渡 辺 憲

回	期日（曜） 場所・主務	内 容
42	令和4年10月15日（土） ANAクラウンプラザホテル グランコート名古屋 主催：日本医師会 担当：愛知県医師会	メインテーマ「医療新時代を切り開く勤務医の矜持 ～コロナを克（こ）えて～」 特別講演Ⅰ「医師会の組織強化に向けて」 日本医師会長 松 本 吉 郎 特別講演Ⅱ「社会の共有財として「知のコモンズ」をめざす東海 国立大学機構の挑戦～総合知の活用による人類社会の 課題解決への取り組み～」 講師 国立大学法人東海国立大学機構機構長 松 尾 清 一 特別講演Ⅲ「2040年の医療介護」 講師 一般社団法人未来研究所臥龍代表理事 上智大学総合人間科学部教授 前駐アゼルバイジャン共和国日本国特命全権大使 元厚生労働省年金局長・元内閣官房内閣審議官 香 取 照 幸 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 日本医師会勤務医委員会委員長 渡 辺 憲 シンポジウムⅠ 「医療新時代の病院機能分化と連携推進 ～アフターコロナのあるべき姿を問う～」 シンポジウムⅡ「医師の働き方改革～光と陰～」 愛知宣言採択
43	令和5年10月7日（土） ホテル青森 主催：日本医師会 担当：青森県医師会	メインテーマ「2024年、変わる勤務医、輝く勤務医」 特別講演Ⅰ「安全・安心な医療の実践に向けて」 日本医師会長 松 本 吉 郎 特別講演Ⅱ「健康・医療ビッグデータの可能性：岩木健康増進 プロジェクトを中心とした青森県での取り組み」 講師 弘前大学学長特別補佐 中 路 重 之 特別講演Ⅲ「縄文と生きる –縄文遺跡群の魅力と価値–」 講師 三内丸山遺跡センター所長 岡 田 康 博 報告「日本医師会勤務医委員会報告」 ～勤務医のエンパワーメントを通じた医師会組織強化～ 日本医師会勤務医委員会委員長 渡 辺 憲 シンポジウムⅠ「第8次医療計画、5疾病6事業について」 シンポジウムⅡ「これから始める『働き方改革』 –医師少数県における工夫と苦悩–」 あおもり宣言採択





IWATE

第45回 全国医師会勤務医部会連絡協議会

勤務医が生き生きと活躍できる場を作る ～混沌を成長の機会に～

開催日 | 2025年11月8日 土

会 場 | ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING

日本におけるほぼすべての医師は、そのキャリアを勤務医としてスタートします。大学医学部卒業後、医師として多くのことを病院勤務の中で学びます。病院内では、患者さんだけでなく、他のスタッフ、上級医との人間関係の中で怒られ、褒められ、給料をもらい、資格を取り、自分を磨きます。その後に研究の道、あるいは開業の道を選ぶにしても、基盤となる勤務医のフィールドを充実させることは、ひいては医療・医学の原動力にもつながると信じています。勤務医が生き生きと活躍できるヒントを見つけられる会であることを祈って、今回の第45回全国医師会勤務医部会連絡協議会を、岩手県盛岡の地で開催させていただきます。

国際紛争、パンデミック、自然災害、少子高齢化と人口減少の波の中で、医師の働き方改革、医療DXなど多くの変化を求められる現代は、不確実で不安定、不透明な混沌としたしんどい時代です。でも混沌としている時代こそ、個を確立していかなければなりません。医師会はいうまでもなく医師のための会です。医師の出発点、勤務医の力を最大限に発揮できる場を作ることが、日本の医療を充実させることに直結すると信じております。

東北岩手県は、いうなれば日本の「いなか」を自認しています。人が密集せずいつでも深呼吸できる空気、中心部にいながら北上川や岩手山の大自然を目の当たりにできる街、行列を作らないお店、孤立しにくい人間関係、無駄に輝いていない盛岡の街には、新渡戸稲造、宮澤賢治や石川啄木の気配も感じいただけたと思います。のんびりといなかの空気を味わいながら全国の勤務医の皆さんが肩の力を抜いて和やかに交流できることを期待しております。是非お越しください。

